

令和 5 年度 本部事業計画書（案）

社会福祉法人 ささゆり会

令和 5 年度は、2024 年度より介護事業者は業務継続計画の策定が義務化になります。それに向けた事業作成、施設整備を行なっていきます。また、4 月から自転車のヘルメット着用が努力義務に伴い、自転車通勤や業務中の自転車使用にはヘルメットの着用を促していきます。昨年度から進めていたサンライフひろみねの DX を行ってきました。本年度は、施設整備も終わり、運用の方を進めていきたく考えております。サンライフ土山もネットワークの改修を行い、業務効率を行なっていく予定です。物価高騰に伴いデイサービスの食費の値上げを行います。電気会社が大阪ガスから関西電力に変更します。それに伴い、電気料金が今までよりも値上がります。

今年度、職員の新しい社宅の建設を予定しています。建設費 200,000 千円を予定しています。そのうち 1/3 が補助金を取得します。今年度も、株式会社 OJT ソリューションズと契約し業務改善の研修を行います。今回は特養にフォーカスした業務改善を行う予定です。

本年度は特定技能生の受け入れがあります。サンライフ御立で 3 名。その内インドネシアが 2 名、フィリピンが 1 名就労予定です。サンライフ土山で 2 名。サンライフ魚崎で 2 名、介護型ケアハウスサンライフ魚崎で 2 名のミャンマーから就労します。法人で特定技能生が 9 名就労します。海外から来ている為、生活や仕事に不安を抱えてしまう可能性がありますので、メンタルケアや生活支援をしていきます。そして、介護福祉士の資格取得の為、日本語や介護福祉士の学習支援をしていきます。

昨年度も事業所でクラスターの発生が起きました。職員の体調管理を行い、体調が少しでも優れない場合は休んでもらうこととし、感染者接触疑いのある職員には PCR 検査や抗原検査を行いクラスター発生が起きないように新型コロナウイルスの感染予防対策を行なっていきます。介護職員には手洗いマスクを徹底してもらっています。また、手袋、マスク、アルコール、ガウン等、感染対策用品を切らすことなく確保していきます。今年は新型コロナウイルスが 2 類から 5 類に変更します。社会の動向を鑑みながら、家族様と面会できる日を増やしていく予定です。

運営スローガン：

『足腰・頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす』

1. 本年度の重点課題

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・外国人技能実習生受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・業務の無駄を可視化し業務改善
 - ・施設のDX化
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・技能実習生、特定技能生の採用と育成

2. 定例会議

ア. 理事会

当法人の業務執行機関として、事業報告・決算の承認・事業計画・予算の承認その他重要事項決定のため、以下の執行を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第1回理事会	1. 事業報告・決算報告の承認 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. 新理事・監事の推薦 4. その他諸規定の検討	2023年6月
第2回理事会	1. 理事長・副理事長の選定	2023年6月
第3回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の経営内容について	2023年8月
第4回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所のサービス内容について	2023年10月
第5回理事会	1. 県、市による指導監査の是正監査 2. 上半期事業推進報告と課題の検討 3. その他諸規定の検討	2023年12月
第6回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の人材確保について	2024年2月
第7回理事会	1. 事業計画書 2. 法人組織・諸規定の検討、その他	2024年3月

イ. 監事会

事業の執行状況及び決算についての報告と、理事会に意見を述べるため以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	
監査報告	1. 会計監査人会計監査報告	2023 年 6 月
第 1 回監事会	1. 前期事業報告・決算の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施課題について 3. その他運営上の課題について	2023 年 6 月
第 2 回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他施設運営上の課題について	2023 年 12 月

ウ. 評議員会

当法人の役員の選任と、法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う機関として位置づけ、必置の議決機関として以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
定時評議員会	1. 充実残高計画の承認 2. 2023 年度計算書類の承認 3. 新理事・監事の選任	2023 年 6 月
臨時評議員会	1. 事業計画・予算案の承認 2. 法人組織・諸規程の承認、その他	2024 年 3 月

2. 介護保険サービス推進委員会

利用者様の立場に立った介護と生活の質の向上を目指し、以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回推進委員会	1. 上半期諸事業の取組み結果と課題について	2023 年 12 月
第 2 回推進委員会	1. 2024 年度事業計画御立・魚崎事業所の摺り合わせ 2. 活力ある職場創り推進状況について	2024 年 3 月

特別養護老人ホームサンライフ御立

令和5年度 事業計画書（案）

今年度経営スローガンである「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」を基に介護の原点に立ち返り ADL の維持・向上を念頭におき、医務、リハビリ職員、歯科衛生士と連携を図り、レクリエーション・リハビリの強化を目指す。また、人員配置を全国基準（1：2.13）に合わせ、生産性向上・業務の標準化を図り、その中でも質の高いサービス提供に向け、外国人スタッフの教育体制の確保と共に人材育成に向け研修を拡充し、指導者にあたる日本人スタッフのスキルアップも目指していく。

1. レクリエーション・リハビリの強化

日々の介助時だけでなく、朝礼時のラジオ体操やレクリエーション等実施時には、ADL の維持・向上を念頭におき、楽しみながら参加して頂ける雰囲気づくりに努める。また、医務、リハビリ職員、歯科衛生士と連携を図り、楽しみながら日々の生活活動に落とし込んでいけるようなレクリエーション・リハビリの強化を目指す。

2. 生産性向上・業務の標準化への取り組み

1 年を通し実施してきた 5S 活動・業務改善活動を継続し、3M の解消、業務の見直しをし、標準化を進めていく。あわせて対人援助の基本である、人物理解・個別化を再度考え、見直し、徹底的に実施ししていく。間接援助業務を効率的に実施し、直接援助業務において十分に利用者に向き合い時間をかけ利用者本位の介護が実施できるようにしていきたい。

また、おむつの在庫管理を徹底し、スタッフの意識も高めていきたい。その他、有事に対応できるよう備蓄も必須であるが、商品により保管期間や保管方法等に違いがあるため、各所で責任者を明確にし、情報共有し、無駄を出さないよう徹底していきたい。

3. 感染対策強化

新型コロナウイルス感染症について、高齢者の感染時のリスクと社会での意識のギャップの中どのように発生リスクを回避していくかを全スタッフが共通認識として持たなければならない。そのためにも看護師、感染症委員会とも連携し、基本的な感染対策から有事の臨機応変な対応までできるよう研修を定期的の実施し、今まで以上に各スタッフの意識を高めていく。また、検温・うがい・手洗い・消毒の徹底、マスクの着用、「一行為一手洗い」の励行をし、コロナ、その他の感染症予防に努めていく。

4. 介護技術の指導強化

生産性向上・業務の標準化を実施するにあたり、心理的安全性を高めることが必要不可欠である。一人でも多くのスタッフが自身の役割を認識し、意志を高めあえる指摘ができるよう、核となるスタッフ育成を研修とおして実施していきたい。

I. キャリアアップ支援と人材育成体制の充実を図る

コロナ対策を徹底し、Zoom などを活用したオンライン研修への参加支援を行う。また、内部研修として各専門職からの研修や外部研修受けたスタッフからの伝達研修も含め実施し、介護の質・技術力の向上を図る。

II. 内部研修 について

看護師・作業療法士・歯科衛生士等各専門職と連携を図り研修を実施し、ADL の維持・向上、自立支援に向けた介護の基本を踏まえ内部研修として実施していく。あわせて、積極的に福祉用具などを活用し、一人にかかる負担の軽減を図りたい。

III. 外国人職員の育成について

日本語学習においては、日本語コミュニケーションの向上にむけ、積極的にコミュニケーションを図らなければならない職場環境を作り、介護技術や知識の習得と合わせ進捗を確認していきたい。日本語勉強会の先生方とも連携を図ると共にリーダー及び主任・相談員が、各所属班での状況把握、サポート体制の強化を図っていく。また、日本語能力試験、介護福祉士受験対策に力を入れ、対象となるスタッフの学習方法を確認しながら学習のサポートを行っていく。介護技術においても情報共有を徹底し、それぞれのスタッフのレベルの把握、いかにブラッシュアップしていくかを考えながら、安全で安心な介護提供が出来るようにする。

IV. 介護ロボットなど IoT 及び ICT 活用について

眠りスキャン及び眠りスキャン EYE（見守りカメラ）、インカムを適材適所で活用できるようまた、事故防止や看取り時等の活用後のフィードバックも委員会も巻き込み、定期的な使用箇所の見直し、使用方法の確認等を行っていききたい。

5. 有給取得強化について

昨年度までのコロナ禍とは違う社会情勢に移る中で、スタッフの外出の機会もより増すと考えられる。健康管理を徹底し、積極的に休暇を取りリフレッシュできるよう支援したい。今年度は、計画的に年次有給休暇の 5 日以上取得及び生活支援休暇も活用した連続リフレッシュ休暇が取得出来るようにしていきたい。

6. 次期役職育成及び資格取得

今年度より同一事業所に 5 年以上いるスタッフの定期的な異動が実施されることとなり、次期や S 区職候補の育成、各種資格取得者の育成が急務と考える。

I. 次期相談員・主任・リーダー候補の育成

定期の異動や退職、産休育休職員のフォロー等によるスタッフの異動にも対応出来るよう、次期相談員・主任・リーダー候補を選定し、それぞれの現役職者が業務の見直し、効率化を図ったうえで、候補者への育成を行い、質の向上、レベルの底上げに繋げたい。また、スタッフ一人ひとりの人生設計にも配慮しながら、ワーク・ライフ・バランスを考えられるようコミュニケーションを図り、候補者選定、無理のない育成を行っていききたい。

II. 資格取得の向上

介護福祉士及びケアマネジャーの受験資格がある者については施設で把握し、積極的に受験要請を行う。また、受験者に配布されている問題等で疑問点がある場合には、質問等出来るような環境を整え、受験者が勉強する意識を高め、介護福祉士及びケアマネジャー資格取得率の向上を図りたい。また、認知症ケアに携わる介護従事者は、無資格、各種研修未受講の場合、

入職後 1 年以内に認知症基礎研修受講が義務化（今年度まで経過措置期間）されているため、定期的に受講できるよう日程調整を行っていく。

7. 収入の確保

ショートステイ・医務・病院の地域連携室との連携を行い入退院に向けたベッドコントロールやロングショートの確保を行い、空床をできる限り出さないように努める。入院については、状態観察を強化し、医務と連携し、早期発見・対応⇒早期入院⇒早期退院へと繋げたい。また、入所率98%以上をキープすることを目指したい。そのためには、ロングから特養にスムーズに移行できることが必須である。あわせて、入院ベッドの利用でショートの稼働を上げていくことも重要である。今年度もショート相談員と密に連携をはかり、入所申し込みがあった場合には、早期の面談等迅速に対応していきたい。そして、算定可能な加算取得を確実にを行い、介護度の見直しを定期的に行っていく。

支出として、特定技能生の入国がある程度定期化されたこと、既存スタッフの昇給の確保もあり、人件費の増加、光熱費・食材費等の値上がりによる増加は必至である。また、施設内のLED 電気未設置や更新箇所の工事が予定されている。

●年間収入予想(令和元年度実績の2月・3月分は目標の数値です。)

(単位:千円)

[illegible]

サンライフ御立ショートステイ

令和 5 年度 事業計画書（案）

令和 5 年度経営スローガンである「足腰頭と心を鍛えていつまでも元気に楽しく過ごす」を基盤とし、期間にかかわらずご利用される方全員が機能維持をしながら楽しく過ごすことができ「また利用したい」と思ってもらえるようなサービス事業所を目指していきたい。

1. 利用者様の健康維持と安心できる環境

- I. YouTube を使用した体操や手足を動かすレクリエーション、生活リハビリを通して楽しいと思ってもらえる時間を持つことで心身の健康維持に努める。
- II. 新規利用の方には積極的に関わりを多く持ち、初回利用の不安軽減に努める
- III. 楽しいと思える時間を提供する
 - ・ 4 月～9 月は外出レクを企画し気分転換を図る。
 - ・ 月 1 回おやつレクを実施する。季節に合ったものやリクエスト企画などアイデアを出し合う
- IV. 依頼を受けたケアの要望にきちんと応える。
情報共有不足なのかなかなか徹底ができていない。仕組み作りとともに、「なぜそのケアが必要なのか」を各自が把握することが必要である。
- IV. 家族様とのコミュニケーションについて、変化があった際のコマメな連絡や、面会状況によっては手紙による近況報告により信頼関係を構築していく

2. 継続した感染症対策

換気、手洗い消毒など基本の徹底、送迎時の検温と体調確認を継続して行っていく。世の中の流れが変わり、職員も外出の機会が増えるなど行動の変化がみられると思うが、個々の感染対策はきっちりと行ない、万一感染発生があっても、過去の経験を活かし全員が決められた対応をしっかりと実施できるように看護師、感染症委員会とも連携し、研修なども定期的におこなっていく。

3. 事故防止の取り組みを継続していく

ヒヤリハットを 1 日 5 件提出し、事故の発生を防ぐようにすることを継続する。注意喚起のポスターに替わるものをフロア会議で検討していく。フロアでは常に見守りの目が必要であることを全員が意識し、場を離れる際の声掛けや、無人にならないような動き方を徹底していく。

4. 生産性向上・業務の標準化への取り組み

1年を通し実施してきた5S活動・業務改善活動を継続し、3Mの解消、業務の見直しをし、標準化を進めていく。それにあわせ、対人援助の基本である、人物理解・個別化を再度考え、見直し、徹底的に実施ししていく。間接援助業務を効率的に実施し、直接援助業務において十分に利用者と向き合い時間をかけ利用者本位の介護が実施できるようにしていきたい。

また、おむつの在庫管理を徹底し、スタッフの意識も高めていきたい。その他、有事に対応できるよう備蓄も必須であるが、商品により保管期間や保管方法等に違いがあるため、各所で責任者を明確にし、情報共有し、無駄を出さないよう徹底していきたい。

5. 介護技術の指導強化

I. キャリアアップ支援と人材育成体制の充実を図る

コロナ対策を徹底し、Zoomなどを活用したオンライン研修への参加支援を行う。また、内部研修として各専門職からの研修や外部研修受けたスタッフからの伝達研修も含め実施し、介護の質・技術力の向上を図る。

II. 内部研修 について

看護師・作業療法士・歯科衛生士等各専門職と連携を図り研修を実施し、ADLの維持・向上、自立支援に向けた介護の基本を踏まえ内部研修として実施していく。あわせて、積極的に福祉用具などを活用し、一人にかかる負担の軽減を図りたい。上記項目について、特養とともに協力して実施していく

6. 有給取得強化について

計画的に年次有給休暇の5日以上を取得および生活支援休暇も活用したりフレッシュ休暇を全員が取得できるようにする。

7. 収入の確保について

収入増に繋がる加算取得はなく、人件費や経年劣化による修理等で支出増も予想される。ただ、前年度はコロナの影響で稼働率が100%を下回る月が複数あったが、今年度は空床をできる限り出さず、常に100%以上を維持できるようにしていく。コロナによるキャンセル等は今後も続くと思われるが、入院ベッドの利用を想定した予約受けをおこない、急なキャンセルに備える。ロング枠で長い空床を出さないように特養相談員・主任と連携し待機者の確保に努め、素早い入れ替えをおこなっていく。急な依頼にも迅速に対応し、『頼れる事業所』をアピールしていく。今年度から予約アプリを新しく取り入れることになっているが、これをうまく利用し居宅ケアマネに空床発信をスムーズにおこなっていけるようにしたい。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入	9,998	10,590	9,666	11,696	11,155	10,398	63,503
令和 5 年度収入計画	11,630	11,235	10,472	10,952	11,139	11,223	66,651
令和 4 年度支出	8,279	7,700	12,580	7,888	8,625	6,877	51,949
令和 5 年度支出計画	8,445	7,854	12,832	8,046	8,798	7,015	52,988
令和 4 年度収支差額	1,719	2,890	-2,914	3,808	2,530	3,521	11,554
令和 5 年度収支差額計画	3,185	3,381	-2,360	2,906	2,342	4,208	13,663
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入	11,387	11,414	9,276	9,363	10,400	11,000	126,343
令和 5 年度収入計画	11,248	11,500	10,662	10,709	10,171	10,375	131,316
令和 4 年度支出	8,125	11,300	11,865	7,665	8,200	9,049	108,153
令和 5 年度支出計画	8,288	8,625	12,102	7,818	8,364	9,230	107,415
令和 4 年度収支差額	3,262	114	-2,589	1,698	2,200	1,951	18,190
令和 5 年度収支差額計画	2,961	2,875	-1,440	2,891	1,807	1,145	23,901
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率							103.9%
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率							98.9%
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率							131.4%
収入・支出・差額についての管理者意見							
・稼働率を 100%以下にしない							
・経年劣化による故障、修理が毎年ある、今後もあると思われる							
・ロングの空床を出さないことが何より稼働率安定につながるため特養と協力して待機の確保をおこなう							

※ 令和 3 年度 2 月、3 月は予想である。

(単位：千円)

特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和 5 年度 事業計画書（案）

今年度経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」のもと、ベッド稼働率の安定に向けて残存機能の維持・向上を図り、健康寿命を延伸していくことを目標に、以下の項目を軸として事業計画を立案する。

1. 各委員会活動の充実

I. 各委員会活動について

褥瘡：多職種間で予防、早期対応に努め発生件数の減少（前年比）及び悪化防止を図る

看取り：海外職員への看取り対応指導及び看取り対応の充実を図る

感染症：日常的な感染予防対策の実施、感染症の基礎知識の普及を図る

各委員会活動において、海外職員の増加もあり全体的に介護職員の自発性や行動意欲が低下している印象がある。そのため、海外職員にも理解・参加しやすい環境形成を目指して、工夫しながら取り組んでいきたい。

感染症対策については、過去に 2 度新型コロナウイルスの施設内クラスターを経験し、有事の際では職員 1 人 1 人が感染予防意識を高くもって対応することができている。しかし、平時となれば業務効率優先の思考や、経時的変化によって感染予防意識の希薄化も懸念されるため、継続的に注意喚起や啓発活動を行い、感染予防対策の徹底を図っていきたい。

2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて

I. 嘱託医と連携し、施設内処方や早期受診件数の増加を図り、入院数の軽減を目指す

II. 入所者の健康診断を年 1 回実施する。嘱託医の指示のもと、診断結果から潜在性疾患の検索や異常の早期発見・早期治療を図り、ベッド稼働率の維持（目標値 98%以上）を目指す

感染症流行等の非常時においても、ショートステイでは営業継続を目指し、感染対策と並行しながらも生産性が維持できるよう努めていきたい。

残存機能の維持・向上を図るために、多職種間で協働して可能な限りの個別対応や生活リハビリの展開に励む。

各感染症対策として、保健所等行政機関と連絡を取り合い、今後もスムーズな予防接種の実施を目指す。

3. 職員の健康増進

I. 職員健康診断を医師会協力のもと年1回（深夜業に従事するものは2回）、嘱託医と連携し腰痛検査を年2回実施する

II. オプション健診や人間ドック助成対象者については、健診への呼びかけを行い受診率の向上を図る

自身の健康状態への関心を高めるために、各種健康診断の重要性を啓発しオプション健診や人間ドックの希望者の増加を図る。要検査や要受診の診断がある職員については、受診を促す内容の書類を作成・配布し、安全に就労できるようはたらき掛ける。

特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

令和5年度 事業計画書(案)

今年度は厨房内業務のマニュアル化・タイムスケジュールの作成を進めていく。さらに、感染症発生時の対応マニュアルも作成し、いつ同じようなことが起こっても迅速な対応ができるようにする。

1. 人材の定着・育成

前年度入職されて方の調理や盛り付け等の技術は向上したように感じたが、長年勤めている職員の方への負担が多少ではあるが、見られる。全ての職員の仕事量が均等になるようにしていきたい。また、作業のマニュアル化も進め、仕事の引継ぎにかかる時間を省いていきたい。

また、昨年度は厨房職員でもコロナによる休みがあった。その際、厨房は残業が増えたり、食事の提供に遅れが出るなど、仕事が回らない状況があった。そのため、人材の確保や1人にしかできない業務を減らすなど、今後同じようなことが起こっても、厨房が回るようにしていきたい。

2. 献立の充実

コロナで外出・外食ができない状況が続いている。そのため、普段の食事に季節感を取り入れ、ることや、行事食を行い、楽しんでもらえる食事を提供していく。また、普段からおいしそうに見える盛り付けを意識し、配膳していく。また、コロナ発生時は使い捨て容器の対応になるため、その際の献立のを充実させ、隔離対応中でも利用者の摂取栄養量を確保できるように努める。

また、食材の値上がりも続いているため、無駄を減らすことや、旬の食材を多く取り入れる、調味料の業者の見直し等をし、材料費の値上げを極力抑えていきたい。

3. 衛生管理

今年度も新しい職員の入職があるため、衛生指導を徹底し、食中毒や異物混入を防いでいきたい。

昨年度は破損している食器による配膳もあり、特養職員より注意を受けた。洗浄時配膳前も確認を徹底し、防いでいきたい。

デイサービスセンターサンライフ御立

令和5年度 事業計画書（案）

令和5年度ささゆり会経営スローガン「足腰・頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」を基に、利用者様が楽しく快適に過ごして頂けるような施設作りを行っていく。また、令和4年度より法人全体で実施している「トヨタ生産方式による生産性の向上による業務改善」を今年度も引き続き実践し、利用者の方との触れ合いの時間を増やしレクリエーション等サービスの向上に努めたい。

1. サービス内容の見直しについて

現在、看護師による健康状態の把握・健康サポート等実施しているが、令和5年1月より看護師の増員を行い3人体制とし、今まで以上に小さな変化を見逃すことなく観察・報告を行い、より細やかな対応を実施していく。また、来年度の介護報酬改定に向けて個別機能訓練加算算定を目標にセラピスト採用も視野に入れリハビリテーションの充実を図りたい。

2. 感染対策

昨年度に引き続きコロナウイルス流行の有無にかかわらず、利用者様・職員ともに、検温・マスクの着用（厚生労働省の通達に準ずる）・うがい・手洗い・消毒を徹底し感染対策に努めていく。昨年度は感染対策の徹底を図るため、施設内研修の半数以上を感染症対策についての研修とし、職員の感染対策の意識向上につながった。今後も継続して感染対策等の研修を実施し、感染対策に努めていきたい。

3. 利用者の確保について

昨年度はコロナウイルス感染症の流行を受け、登録人数は一定数の確保ができつつも、サ高住等の利用者の方のデイサービス利用が長期休止となることもあり上半期は利用者の確保が困難であった。下半期は徐々に長期休止も少なくなり、それと同時に新規利用者の定着も相まって利用者の一定数の確保は達成した。今年度は、看護師増員による健康サポート体制の強化を筆頭に今以上に細やかな対応、家族・担当ケアマネージャーへの報告を実施し、利用者の確保に努めたい。

※令和４年度２月３月は予想である。 ＊収入は介護報酬の収入を記載 （単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入	2, 988	3, 565	3, 640	3, 603	3, 599	3, 754	21, 149
令和 5 年度収入計画	4, 701	5, 112	5, 138	5, 136	5, 336	5, 386	30, 809
令和 4 年度支出	3, 528	3, 580	4, 010	3, 484	3, 763	3, 209	21, 574
令和 5 年度支出計画	3, 794	4, 073	3, 933	3, 933	4, 073	3, 933	23, 739
令和 4 年度収支差額	-540	-15	-370	119	-164	545	-425
令和 5 年度収支差額計画	907	1, 039	1, 205	1, 203	1, 263	1, 453	7, 070
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入	4, 367	4, 224	4, 604	4, 472	4, 344	4, 887	48, 047
令和 5 年度収入計画	5, 387	5, 387	5, 120	5, 161	5, 161	5, 387	62, 412
令和 4 年度支出	3, 576	3, 391	4, 191	3, 488	3, 356	3, 773	43, 349
令和 5 年度支出計画	3, 933	3, 933	3, 933	3, 794	3, 794	3, 933	47, 059
令和 4 年度収支差額	791	833	413	984	988	954	4, 538
令和 5 年度収支差額計画	1, 454	1, 454	1, 187	1, 417	1, 367	1, 454	15, 403
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率				129%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率				108%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率				339%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
昨年度に引き続き新規利用者の獲得・定着が今後の収入の安定につながると考えられる。支出に関しては光熱費、その他物価高騰により増加傾向にあるため、空調管理の徹底、出来る限りのムダの削減を図る必要があると考えられる。							

●令和5年度予想利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度実績	13.4	16.0	16.3	16.3	15.7	17.0	15.8/月平均
月合計(人)	351	417	424	424	425	442	2,483
令和5年度目標	20.0	20.0	21.0	21.0	21.0	22.0	20.8/月平均
月合計(人)	500	540	546	546	567	572	3,271

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
令和4年度実績	18.85	18.61	19.48	21.92	21.0	21.0	20.1/月 平均
月 合計(人)	490	484	526	504	504	567	5,558
令和5年度目標	22.0	22.0	21.0	22.0	22.0	22.0	21.8/月 平均
月 合計(人)	572	572	546	550	550	572	6,633

(令和 4 年度 2 月 3 月 予想)

ケアハウスサンライフ御立

令和5年度 事業計画書（案）

1. 事業計画策定

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」をスローガンに、新型コロナウイルスによって、疲弊した生活に活気を取り戻す。

- I. 3年前の1/16、国内初の新型コロナウイルス感染者が確認されて以来、コロナウィルスと共に時間が経過した。5月には第5類に移行するが、高齢者施設においてはやはり慎重な姿勢で取り組まなければならない。日常生活において有効な感染症対策を上手く習慣化していく必要がある。

フレイル状態に陥っている入居者が複数存在し、現状を改善する事を重点目標にしたい。只、新型コロナウイルスの感染状況に左右されるのは否めない。十分な感染予防対策をとりながら焦らずに徐々に各行事、教室を元の状態に戻すことを目指したい。

入居者の大半が、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間に位置していると考えられる。加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能の障害、心身の脆弱性が認められる。

この1年、職員が介入・支援をどう進めていくのが良いかを考えていきたい。入居者と共に生活機能の維持向上を目指したい。

- (1)入居者1人ひとりが、現在の身体状態を把握する。また、測定及びチェックを定期的に実施し変化を認識してもらう。

健康チェック	(目標)2回/月	実施	継続
体力測定	(目標)2回/年	実施	継続
骨密度測定	2回/年	実施予定	新規
フレイル・口腔内チェック	2回/年	実施予定	新規
健康診断	(目標)1回/年	実施予定	継続

- (2)予防の為の対策

いきいき百歳体操及びラジオ体操	(目標)月～金曜日(午前9:15～)
学習療法	(目標)1回/週
各種教室の実施	
(目標)「フラワーアレンジメント教室」「手作り教室」	
新規で「カラオケ教室」「運動教室」	
行事の実施	
(目標)「誕生会」「ふれあい喫茶」「外食・バスハイク」「買物の日」	
継続実施したい	

Ⅱ. 収支目標

収入については、この一年入居者の出入りが顕著に表れると予想される。特養及びグループホームの空き待ちの入居者がおられる。空室の期間を出来る限り短期間にして満室状態を維持する事が大切である。万全な新型コロナウイルス感染防止を心がけ待機者の確保も継続的に行い、スムーズな入退去としたい。

支出に関しては、経年劣化による補強や取り替えが予想される。

※令和4年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度収入	3,009	9,465	3,029	2,814	9,826	2,839	30,982
令和5年度収入計画	3,040	9,588	3,059	2,915	9,897	2,869	31,368
令和4年度支出	4,078	3,422	4,950	4,713	3,753	3,672	24,588
令和5年度支出計画	4,130	4,130	4,680	4,130	4,130	4,130	25,330
令和4年度収支差額	-1,069	6,043	-1,921	-1,899	6,073	-833	6,394
令和5年度収支差額計画	-1,090	5,458	-1,621	-1,215	5,767	-1,261	5,998
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度収入	3,227	2,887	10,622	3,145	2,993	2,789	56,645
令和5年度収入計画	3,121	2,961	9,971	3,124	3,220	2,890	56,655
令和4年度支出	3,993	5,460	5,461	3,935	3,610	3,610	50,657
令和5年度支出計画	4,130	4,130	4,680	4,130	4,130	4,130	50,660
令和4年度収支差額	-766	-2,573	5,161	-790	-617	-821	5,988
令和5年度収支差額計画	-1,009	-1,169	5,291	-1,006	-910	-1,240	5,995
令和4年度と令和5年度計画の収入比率				100%			
令和4年度と令和5年度計画の支出比率				100%			
令和4年度と令和5年度計画の差額比率				100%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
収入について、ADL 低下の入居者が増えケアハウスでの生活が難しく他施設への移動が予想される。重ねて、新型コロナウイルス感染予防もありスムーズに新規入居者が決まらない為、減額となる見通しである。円滑な入退去を心掛け、増額を目指したい。							
支出については、経年劣化による補強や取り替えが予想される。							

2. 職員の健康増進

生活支援休暇及び年次有給休暇の取得については、勤務表作成前に希望休を募り業務に支障をきたさない様とる。

3. 介護福祉士、介護支援専門員の資格取得

本年度は、該当者なし

ユニット型老人ホームサンライフひろみね

令和 5 年度 事業計画書（案）

今年度ささゆり会経営スローガンである事業計画の目標「足腰と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」を基に介護の原点に立ち返り ADL の維持又は向上を念頭におき取り組んでいきたい。新型コロナウイルスには引き続き最大限の注意を払い持ち込まないことと早期対応・対策を心掛け安心して過ごせる場の提供に努める。

1. 科学的介護の実践について

科学的根拠に基づきながら質の向上に努める。

- I. ささゆり会で取り組んでいる日中おむつ外しを継続して取り組むことで、日中おむつ率 0% を目指し個人の尊厳を守り尿路感染やスキントラブルの防止に努める。トイレに行くことで生活リハビリにもなる為、立位保持や座位保持をして頂く機会も兼ねて行う。また排便コントロールにも重点をおき健康管理を行う。
- II. 常食率の向上を引き続き目指す。入居者様の食べる能力の維持・向上を目指す。
- III. 統計を出し数値化することによって職員の目標設定を具体化する。

2. 看取り介護について

質の高い看取り介護となるように、日頃から入居者様・家族様と親身に接しラポール形成に努め、精神的サポートを含め連絡を密に取りサンライフひろみねに入居できて良かったと思って頂けるようにケアの質向上を目指す。デスカンファレンスや施設内研修を実施し安楽に過ごせる環境の整備に努める。

3. 職員の労働環境の整備

慢性的な人員不足の介護業界だが、サンライフひろみねでは平均すると入居者様に対して介護・看護職員の割合が 1.29 : 1 と高い配置でケアを提供できた。昨年より技能実習生・特定技能実習生が入職し戦力となっている。既存職員が働きやすい環境でやりがいある職場環境の形成に努める。

- I. 連続リフレッシュ休暇が確実に取得できるように職員の希望を 3 月に聞き計画的に進める。又、有給休暇も適正に消化できるように配慮する。
- II. 働きがいのある職場づくりのため、ワーク・ライフ・バランスに配慮する。過重労働による健康障害を防止するため、労働時間の適正管理の徹底を行う。
- III. 労災事故のゼロを目指す。小規模特養に応じた適正な職員配置を心掛ける。介護機器の導入や ICT の導入を進め少数精鋭を目指す。

4. 職員教育・組織体制作りにについて

ささゆり会全体で取り組んでいる 5 S 活動を継続し環境整備を行うと共に、ムダ・ムラの無い仕事ができる体制作りに取り組んでいきたい。今年度も株式会社 OJT ソリューションズを講師に招き「全スタッフが考える機会を持ち利用者本位の介護を実施し、業務効率を上げていくために」をテーマに取り組んでいく。また随時、教育体制を見直し技能実習生・特定技能実習生のレベルアップを図っていく。資格取得要件を満たす職員は介護福祉士取得に向けサポートしていく。

- I.外部研修（オンライン研修含む）への参加機会を増やし介護技術の向上及び職員の意識向上や施設サービスの活性化を図りたい。
- II.介護福祉士受験対象者がいる為、学習の進捗状況を把握し勉強会に参加できる環境を整える。
- III.新入職員は認知症基礎研修の受講を速やかに行う。
- IV.技能実習生・特定技能実習生の日本語学習の進捗状況を確認し N3 合格を目指す。

5. 地域貢献について

新型コロナウイルス対策で書面での運営推進会議を実施しているが、5 類となることで感染状況に応じて感染対策を徹底し施設内での推進会議が開催できるように努めたい。また、引き続き姫路市医師会看護専門学校の看護実習を受け入れることで地域医療の発展や人材育成に貢献する。

6. B C P 策定について

令和 6 年 3 月までに策定義務の災害 B C P においては、実用性あるものを職員間で協議を重ね想定外の脅威でも利用者様へのサービス提供が継続できるように検討し職員間で共有し訓練を定期的に行い、ただ策定しただけで終わらないようにする。

7. 事業運営について

- I.感染症対策を引き続き徹底して行い施設内感染を防ぐ。また面会制限を長期間行っている為、緩和に向けて対策を随時、検討していく。
- II.入居希望者が減っている為、定期的に病院の地域連携室、居宅介護支援事業所に連絡を取り待機者確保に努め退所後の空室を減らし稼働率年間平均 99%を目指し収入の確保に努める。
- III.年々増えている人件費においては、適正人員に目を向けた運営を心掛ける。また労働人口の減少に伴い人員不足でも対応できるように令和 4 年度に導入した介護ロボ・カメラの有効活用で夜勤 3 名体制から 2 名体制を目指し人件費の抑制に努める。
- IV.個人情報保護に留意しながらインスタグラムを活用し施設の情報発信に努め開かれた施設運営に努める。

※令和4年度2月3月は予想である。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入	13,767	13,880	13,337	13,842	13,873	13,001	81,703
令和 5 年度収入計画	13,930	13,930	13,430	13,870	13,890	13,430	82,480
令和 4 年度支出	11,884	11,368	17,087	12,763	11,470	10,486	75,058
令和 5 年度支出計画	11,148	11,111	15,592	11,111	11,263	11,149	83,985
令和 4 年度収支差額	1,883	2,512	▲3,750	1,079	2,403	2,515	6,642
令和 5 年度収支差額計画	2,282	2,759	▲2,162	2,759	2,627	2,281	10,546
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入	14,564	14,417	14,523	13,716	13,118	14,523	166,564
令和 5 年度収入計画	13,870	13,430	13,870	13,870	12,992	14,604	165,116
令和 4 年度支出	11,759	10,289	16,115	10,828	11,778	12,299	148,128
令和 5 年度支出計画	11,108	11,391	15,605	11,108	11,108	11,108	155,413
令和 4 年度収支差額	2,805	4,127	▲1,591	2,887	1,340	2,224	18,435
令和 5 年度収支差額計画	2,762	2,039	▲1,735	2,762	1,884	2,816	21,047
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率	99.1%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率	104.9%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率	114.1%						

令和4年度は管理栄養士が産休に入り11月より栄養マネジメント強化加算が算定できなくなり収入が50万円減っている為、御立に協力してもらい少しでも早く栄養マネジメント強化加算が算定できるように努める。稼働率においては目標の99%を達成できた為、令和5年度も維持できるように努める。高騰が続いている物価においてはできることは限られているが、職員一同節約の意識づけを持ってもらえるように努める。約4,460万円（補助金含む）の費用を投入しICT化を図る為、生産性を上げ人件費の抑制を図り地域密着型介護老人福祉施設の全国平均1.55:1を目標に一歩ずつ取り組んでいきたい。

令和5年度は電話主装置・ナースコール・スマートホン・見守りカメラを共用部と各居室に導入する為、1,960万円支出がある予定。

デイサービスサンライフ田寺

令和 5 年度 事業計画（案）

令和 5 年度のささゆり会経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」から、理学療法士による個別機能訓練加算算定を行い、専門性を中心としたデイサービスを目指す。

また、本年度は、日曜日が休業日となり、水曜日営業に変更となるに伴い、利用者確保が需要課題となってくる。職員増員に伴い新規利用者確保を目指し営業に力を入れていく。

また、田寺創立 15 年を迎え、送迎車や備品等の修繕費が増えてきている現状である。社用車購入に伴い、支出増加が危惧される為収支と照らし合わせていく。

1. 利用者数の確保

新型コロナウイルスの感染の予防を継続し、個人個人の能力に応じたレクリエーションや機能訓練を目標に利用者様の満足度を上げていく。田寺の強みである外出レクでは、同じ場所へのマンネリ化は避け、安全ルートを確保した外出を継続していく。更に、昨年度より取り入れたチェアヨガは、利用者様からも大変高評価を頂いており、積極的に取り組んで行きたいと考える。

居宅への訪問も定期的に行い、必要に応じて以前にも実施した折込チラシのポスティングを行う。

2. 職員の休暇取得について

年次有給休暇の取得ができているが、送迎のできる職員が少なく一人休むと、一人一人の負担が大きくなってしまう。通常業務においては時間内に仕事を終了し、疲労感をためないようにサポートしていく。また、感染症などの知識を身に付け、自身の体調管理と蔓延化を予防する。

3. サービスの向上に向けた職員の教育

昨年度より、車椅子を使用される利用者様が少しずつ増えてきている。トイレ介助や移乗介助と介護技術を要することが多くなっており、職員の腰痛が危惧される。正職員 3 名は、特養経験者であることから、非常勤職員への介護技術の指導を行い、腰痛予防、利用者様の安全で安心した介助技術のスキルを向上していく。

また、運転が出来る職員が増えたことにより、送迎箇所への指導を行い、少しでも早く道を覚えてもらおうと共に、外出レクの運転も交代で行うようにする。

4. 収支について

収入としては、今年度よりサービス提供加算が 18 単位から 6 単位へと変更になる。また、事業所評価加算の算定ができなくなるため、個別機能訓練加算が算定出来ない方への算定を行っていく必要がある。

また、電気代高騰に伴い節約にも力を入れていく。

昨年度はコロナウイルス感染症に伴い開催は出来なかった。今年度は、5 類へと引き下げに伴い、地域の状況や感染状況を把握し、職員やボランティアへのリスクがない程度に随時実施していく。

(単位:千円)

[illegible]

令和5年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度実績	25.1	23.8	23.6	25.8	21.6	22.5	23.7/月平均
月合計（人）	653	621	590	632	563	585	3,644
令和5年度目標	23.5	25.1	25.7	25.9	25.5	25.1	25.1/月平均
月合計（人）	588	678	668	673	688	653	3,948

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和4年度実績	22.7	21.7	21.3	21.2	21.8	22.8	22.8/月平均
月合計（人）	613	544	577	511	503	581	6,973
令和5年度目標	24.5	24.9	24.7	24.5	24.9	25.3	24.9/月平均
月合計（人）	638	648	643	588	623	658	7,746

* 令和4年度実績2月3月は予想です。

●令和5年度収支計画

(単位：円)

レストランテヴォーノ田寺

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度 収支実績							
令和5年度 収入計画			1,000	1,000	1,000	1,000	4,000
令和5年度 支出計画			10,000	10,000	10,000	10,000	40,000
令和5年度 収支計画			-9,000	-9,000	-9,000	-9,000	-36,000

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度 収支実績							
令和5年度 収入計画	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	10,000
令和5年度 支出計画	10,000	10,000	50,000	10,000	10,000	10,000	140,000
令和5年度 収支計画	-9,000	-9,000	-49,000	-9,000	-9,000	-9,000	-130,000

※令和4年度2月3月は予想である。

ヘルパーステーションサンライフ御立

令和5年度 事業計画書（案）

「住み慣れた我が家で生活したい」との利用者様のご希望に最大限寄り添い、ヘルパーが訪問する事で、生活環境はもちろん、心身ともに潤いを与えられる。「選んで良かった・・・」と言って頂ける、そんなヘルパー事業所であり続けられるよう、日々努めていく。今年度スローガンである「足腰・頭と心を鍛えて、いつまでも元気で楽しく過ごす」を念頭に、利用者様と共に、職員・登録ヘルパー一丸となり取り組んでいきたい。

1. 「利用者様と共に行う！」を大切に。

今年度も継続して、訪問介護とは単なる家事代行という概念を拭う。「身辺のお世話」をするのではなく、「自立した生活の支援」である事を常に感じ、積極的な参加型サービスである事への、意識改善を図る。先回りするのではなく、1つ1つ自己決定をして頂き、自立尊重する・・・ヘルパーの意味を再度利用者様・家族様に理解して頂く様、契約時の入念な説明に努め、介助とは代わりにして差し上げるのではなく、あくまでも自立支援が目的である事。出来ない事を出来るよう支援をする。事業所全員で周知し、サービスに努める。

出来る事は、自分でする。出来ない事は、手助けをすることで残存能力を生かしながら、出来るようになる。在宅で自分らしい自立した生活維持に繋がられる様、精一杯支援する。

2. 人材育成・介護力向上への取り組み

前年度に引き続き全体での内部研修・個人研修を継続して実施していく。その中で、ヘルパー個人の到達度レベルをしっかり把握し、弱点をしっかり補強できるバックアップ体制を作る。

例えば、職員との同行訪問や、担当ヘルパーのサービスに同行する等、他者のサービスの様子を見る機会を持つことで、多方向からの視点で利用者様に関われるヒントを得る。視野を広く持てる様、訪問介護は現場では一人だが、チームワークであることを再度徹底していく。

「報・連・相」。仕事を行う上での基本中の基本。徹底できていない部分は、しっかり行う。

「誰かがしてくれる」との概念は捨て、自分の行動・言語には責任を持つことに、努める。

3. 収入確保への取り組み

現状、利用者様受け入れ人数 120 名を毎月超えており、頭打ち状態である。

新規開拓・居宅への営業は継続して行いが、新規受け入れを制限している現状がある中で、今後の大きな収入増は見込めないと予想される。唯一収入増を見込めるのは、①常勤職員の増員（サービス提供責任者）②現介護の利用者様でのサービス追加である。

状況は日々変化する為、臨機応変に収入増へと対応していきたい。

4. 有給休暇取得

半給・有給を積極的に取得できる様、「申し訳ない」と思わずに済む当然の権利としての、取得継続を目指す。しっかり休み、そしてしっかり仕事へと向き合えるバランスの取れた職場環境へ引き続き、変革していきたい。

5. 感染対策の強化及び万全なる体調管理

「誰もがウイルスを持っている」前提での、責任ある行動をとる。

改めて強固な感染症防止策を、マニュアル化する。

ウイルスを持ち込まない！ 拡げない！ 持ち出さない！

「こまめな手洗い・手指消毒の徹底・正しいマスク着用」等、

何より訪問先へは、不要な物を持ち込まない！重症化する恐れのある高齢者宅への訪問を担っていることを今一度自覚。そして、何より自身の体調管理についてはしっかり責任を持つことが大前提ではあるが、万が一の際にも、安心して働き安心して休むことの出来る環境整備・心身共にサポートできる体制作りの強化を継続していきたい。

6. アルコールチェックの実施

4月～義務化されるアルコールチェック。柔軟に行えるよう準備してきたが、ヘルパー全員での周知を徹底して進める。業務前・業務後のヘルパーの状態を目視(カメラ)で確認。しっかりアルコールの有無の確認。記録の1年間の保存等、安全運転管理者と共に、ルールに乗っ取り、実施していく。

※令和4年度2月3月は予想である。

※収入は介護報酬の収入を記載。

(単位:千円)

[illegible]

サンライフ御立居宅介護支援事業所

令和 5 年度 事業計画書（案）

年間目標

経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」に対し、令和 5 年 5 月に 5 類へ移行するコロナ 2019 やインフルエンザ等の感染症対策を継続しながらケアプランデータ連携システム等を導入し、効率よく業務を行い、相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援することを目標とする。

収入については、管理者変更を行うが、常勤 3 名非常勤 1 名の 4 人体制については変わらず、ほぼ上限に達している担当件数を維持しながら、要支援者から要介護者の割合を増やすことで収益の増加を目指したい。

1. 担当利用者・収入の確保

4 人体制で担当件数はほぼ上限に達している。要支援の比率が病院や地域包括支援センターへの営業を行い新規利用者の獲得に努めたい。感染症の流行により入退院や終了等もあるため、定期的に利用状況を把握し新規依頼時にもすぐに動ける体制を整える。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし、特に地域の方の相談等も迅速に対応できるよう努める。

2. サービスの質の向上

サービスの質の向上のため、要件をみたした職員から順次主任ケアマネジャーを取得しよう心がける。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で話し合いを行う場をつくり、また、各地域包括支援センターと連携を取り、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努める。研修会等にも積極的に参加しよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行う。

3. 有給休暇の取得について

年次有給休暇の 5 日取得に加えて休みがとりやすい環境を整えることで、リフレッシュできる機会をもつ。きちんと取得するため定期的に声掛けを行う。

4. 特定事業所集中減算の回避

訪問介護、通所介護、地域密着型通所介護、福祉用具貸与のみが対象。減算にならないように現在もグループ内に加え、他事業所の紹介を行っている。引き続き減算にならないよう注意し各事業所からの情報等を収集しておき、紹介できるようにしておく。

5. 介護予防支援

令和5年度は、姫路市の地域包括支援センターにおいて委託法人が変更となるセンターが多く、新たな地域包括支援センターとの関係を構築して連携を行い、要支援の担当依頼があれば件数を確認しながら新規獲得に努める。事業所内の状況を考え担当することで、要介護者の新規依頼にも繋げたい。

6. 年間収支の予測

※収入は介護報酬の収入を記載

※令和5年度2月3月は予想である。

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度収入	1,740	1,819	1,833	1,778	1,838	1,783	10,791
令和5年度収入計画	1,750	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	10,750
令和4年度支出	1,544	1,579	3,025	3,062	1,582	1,569	12,361
令和5年度支出計画	1,500	1,480	2,830	1,480	2,680	1,750	11,720
令和4年度収支差額	196	240	-1,192	-1,284	265	214	-1,570
令和5年収支差額計画	250	320	-1,030	320	-880	50	-970
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度収入	1,821	1,778	1,774	1,812	1,750	1,750	21,476
令和5年収入計画	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,750	21,500
令和4年度支出	1,885	2,223	3,038	1,574	1,550	1,550	24,181
令和5年支出計画	1,850	1,460	3,050	1,550	1,550	1,550	22,750
令和4年度収支差額	-64	-445	-1,264	238	200	200	-2,705
令和5年収支差額計画	-50	340	-1,250	230	250	200	-1,250
令和4年度と令和5年度計画の収入比率				100.1%			
令和4年度と令和5年度計画の支出比率				94.1%			
令和4年度と令和5年度計画の差額比率				216.4%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入は、現職員での担当件数がほぼ上限に至っている為要介護者の新規利用者の獲得が必要である。

支出は、昨年に電話やインターネット回線、パソコン等通信環境等大幅な改善を行ったため今年度は減少する予定となっている。ケアプラン連携システムの導入や外部研修や業務効率の為にiPadの購入、故障した自転車の代わりに電動アシスト自転車の購入することで駐車場のない新規利用者の獲得に繋げたい。

前年度は要支援者よりも要介護者の割合が低かったため、地域包括支援センターや病院への営業活動を行い、新規利用者の獲得、認定調査依頼による収入増加を目指すことで収支差額が増加するように努めたい。

デイサービスサンライフ安室

令和5年度 事業計画書（案）

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」をスローガンに、施設・職場環境を整え、利用者・職員がいつまでも元気に楽しく過ごす（働くことができる）デイサービスにできるよう職員一丸となって、より良いサービスの提供、職員の健康増進に取り組んでいく。

また、営業活動による利用者数の確保や、きめ細やかな利用者対応を行うことで、利用登録者数の増加を目指し、収入の安定・増加を図っていく。

1. サービス内容の向上

新型コロナウイルスの今後の動向は不明瞭だが、利用者様に楽しんでいただけるレクリエーションやサービスを目指す。また利用者様からの要望の多い買い物企画や外出企画を増やし、感染対策を徹底しながら実施していく。月に2回来ていただいている移動スーパー「ふれあいのマルシェ」は、独居の利用者様において生活用品の買物手段として定着しており、今後も引き続き継続していく。また別分野での訪問販売の利用も検討していきたい。

前年度から開始したパソコンやタブレットを使用したレクリエーションも定着してきている。スマートフォンを利用している利用者様も増えてきているため、普段行うゲームの他、習字や手芸、工作など様々な場面でデジタル機器を活用できるように取り組んでいきたい。

2. 職員の質の向上・健康増進

利用者様の身体状況の多様化や職員の体調問題など、様々な状況への対応力が必要となってきた。介護知識・技術の再確認や疾患別の対応等の職員研修を定期的の実施し、職員の身体的・精神的負担を少しでも改善できるよう取り組んでいきたい。

前年度は職員の長期休職や新型コロナウイルスの感染など、職員の健康問題が多くみられ、親の介護問題なども増えてきている。健康診断や人間ドックを積極的に利用してもらい、病気の早期発見・予防につなげていく。また全職員が計画的に有給休暇を最低5日以上取得し、身体面・精神面ともに健康に元気に働くことができる環境を整えていきたい。

3. 業務の見直し・効率化

職員が各業務に集中できるよう職種ごとに業務の見直し・簡素化を図っていく。またデジタル機器の知識・活用頻度を増やしていくことで、記録や各職種間の情報共有を円滑に行い、業務の効率化・残業時間の縮小を図っていく。

4. 介護報酬について

前年度は登録利用者の高齢化により、長期の入院や施設入所が多く、また新規利用者を獲得するも、短期間の利用で終了してしまうことが多かった。登録利用者の内訳においても約7割が利用単価の低い要支援1・2、要介護1となっており、利用者数・収入ともに減少となっている。また年間を通して職員の移動が多く、利用者家族・ケアマネジャーからの施設に対する信頼度が低下してきている印象がある。そういった面も利用者数の減少に関与していると思われる。今年度は利用者対応や見学対応など日々の業務をより丁寧に行い、利用者家族・ケアマネジャーからの信頼を取り戻すことで、新規利用者の獲得・収入増を目指していく。

支出においては、送迎車の買い替えが必要となっており、また施設の大型機器や備品なども老朽化により修理が必要な物が多くなってきている。デイサービスが開設してから12年目に入っており、今後まとまった金額の支出が続く可能性が予想される。残業時間の縮小や日々の支出の見直しを行い、支出を抑えていきたい。

令和5年度予想利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度実績	27.8	28.2	28.2	27.1	25.3	26.5	27.2 / 平均
月合計	724	732	733	704	684	689	4,266
令和5年度予想	27.5	27.5	27.5	27.0	27.0	27.0	27.3 / 平均
月合計	688	743	715	702	729	702	4,279

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度実績	28.0	27.9	26.9	26.4	27.0	27.0	27.2 / 平均
月合計	728	725	725	608	648	729	8,429
令和5年度予想	27.5	27.5	26.5	26.5	26.5	27.5	27.0 / 平均
月合計	715	715	689	663	663	715	8,439

令和4年度2・3月は予想である。

令和 5 年度収支計画（令和 4 年度 2・3 月は予想である）

（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入	5,782	5,640	5,605	5,387	5,560	5,268	33,242
令和 5 年度収入計画	5,947	6,479	6,213	6,087	6,348	6,087	37,161
令和 4 年度支出	5,082	5,554	6,392	5,285	4,719	4,972	32,004
令和 5 年度支出計画	5,389	5,389	9,409	5,389	6,889	5,689	38,154
令和 4 年度収支差額	700	86	-787	102	841	296	1,238
令和 5 年度収支差額計画	558	1,090	-3,196	698	-541	398	-993
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入	5,887	6,295	6,347	5,155	5,164	5,872	67,962
令和 5 年度収入計画	6,213	6,213	5,962	5,705	5,705	6,213	73,172
令和 4 年度支出	5,292	4,720	9,880	5,233	4,895	5,165	67,189
令和 5 年度支出計画	5,609	5,389	6,189	5,609	5,389	5,959	72,298
令和 4 年度収支差額	595	1,575	-3,533	-78	269	707	773
令和 5 年度収支差額計画	604	824	-227	96	316	254	874
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率					108 %		
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率					108 %		
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率					113 %		

収入・支出・差額についての管理者意見

（収入について）

個別機能訓練加算・ベースアップ等支援加算が算定可能となったため、前年度と比べ収入は増加する見込みである。サービス提供体制強化加算など要件を見つつ、算定できる加算を増やしていきたい。

（支出について）

昨年度より大型機器・送迎車両の修理が続いているため、施設修繕費用に 60 万円・送迎車両購入費用に 300 万円を計画しており、支出は増加する見込みである。

（収支差額について）

支出が大幅に増える見込みであるが、加算などの収入増加を考慮し、前年度と比べ 13% 増となっている。

姫路市安室地域包括支援センター

令和 5 年度 事業計画書（案）

昨年度、令和 5 年 4 月からの地域包括支援センター開設法人の公募があり、令和 5 年度より 5 年間、引き続き安室中学校区を担当することとなった。ただ、姫路市にある 23 の地域包括支援センターのうち、5 か所があらたな法人が受託することとなり、姫路市全体として、新たな体制となる。当センターでは、15 年間の活動を経て、地域で名称や役割は徐々に広まり、相談場所としての啓発が進み、認知度が上がっており、今年度も各機関と連携を図り、継続して安定した地域包括支援センターを運営していきたい。

姫路市内各地区で生活支援体制検討会議の開催をすすめており、安室校区では、昨年度に第 4 回を開催することができた。ただ、安室校区では、公民館長をキーパーソンとして開催してきたが、昨年度、公民館長が交代となり、生活支援体制検討会議は、地域住民主体の開催という形となるので、今年度からは開催が難しい状況となっている。今後は、安室東校区とともに、連合自治会長への働きかけを継続していきたい。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼を実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行っていく。また、月 1 回の職員会議を継続して行い、毎月 1 人ずつ担当者を決め、主催してもらうことで、各職員のスキルアップにつなげていく。また、困難事例等に関しては、ホワイトボード使用し、可視化した事例検討しており、引き続き情報の整理と課題抽出を行っていく。相談対応者については、年に 3 回程度、終結について話し合いを行い、メリハリをつけた支援をしていきたい。

研修については、研修案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしている。オンラインでの研修をうまく取り入れながら、必要な研修を受けることで、事業所全体でのスキルアップにつなげる。

認知症カフェについては、2 件が姫路市に登録しているが、1 件が休止状態、もう 1 か所はコロナの状況をみながらの開催となっているが、昨年度は、年 3 回の開催となり、徐々に開催回数が増えてきており、今年度も開催支援を継続し、認知症予防、早期発見、啓発に取り組んでいく。また、認知症サポーター養成講座を含めた認知症講座についても、認知症の方が地域で暮らしていくことができる地域づくりのため、開催していきたい。

いきいき百歳体操については、各グループでフレイルチェックを行うことになっており、今年度も引き続き取り組んでいきたい。地区によっては後継者不足等で老人会が閉鎖となる地域も増えてきており、それに伴いいきいき百歳体操の活動も中止となるグループもある。あらためて、いきいき百歳体操の普及啓発に努めていきたい。

介護予防については、昨年度、安室・安室東両公民館での介護予防講座を開催できおり、今年度も開催の予定である。他サービス事業所とも連携し、多くの地域住民が興味を持って参加してもらえるよう開催していきたい。

[illegible]

特別養護老人ホームサンライフ土山

令和5年度 事業計画書（案）

今年度の法人のスローガンである「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも楽しく過ごす」を大きな目標とし、IT機器導入による業務の効率化と機能訓練実施や、職員研修の充実など、利用者様にとって施設での生活がより充実したものになるよう支援していく。また、新型コロナに関する政府の方針や動向を注視しながら昨年を引き続き、感染症対策についても勧めていく。

1. 感染症対策の継続

衛生管理・感染症対策委員会で決まったことを確実に実施していく。換気については、常時おこない、冷房・暖房を使用しながらも常時換気をする。非接触型体温計を使用し、利用者様の体温を定期的に把握する。職員についても、1日2回の体温測定を義務付け、体調不良者や風邪症状がみられる場合は、退勤してもらい受診を勧める。感染予防物品についても法人内で協力し不足がないようにしたい。感染者の業務にあたる際はN95マスクを必ず着用する。レッドゾーン、イエローゾーン、グリーンゾーンを明確にし、感染者発生フロアの職員の負担が大きくなるよう人員を配置し、それぞれのユニットで夜勤職員を配置する等の対応をとっていきたい。また、引き続きマニュアルの整備や研修、委員会の実施、医務と連携しての訓練を行い、感染予防・発生時の対応の強化を図りたい。

新規で病院や他施設、在宅から利用者様の受け入れを行なう場合は、積極的に検査を勧め、体制を整えた上で受け入れを実施していく。

2. 業務の効率化と機能訓練の実施

介護ロボット（aams、タブレット、介護カメラ等）導入により業務の効率化を図り、適正な人員配置（全国人員配置基準1:1.67）を見極め、ムダを省く。職員一人ひとりが時間の意識を持ち、ムダを省くことでできた時間で機能訓練や余暇活動を充実させる。介護ソフトの入力項目の見直しを行ない、業務の効率化を図る。

機能訓練については、利用者様の身体状況が重度化している状態で、日常生活動作における訓練を今後も継続することと、身体の関節が硬くならない事を重点に協力医療機関の理学療法士の指導の下、機能訓練の支援を勧めたい。

3. 面会環境の整備

リモートでの面会を実施してはいるが、家族様との直接の面会は規制が続いている。感染者数の減少が見込まれる際には素早くお知らせの送付を行ない、衝立を使用する、

換気を徹底する等感染対策を行なった上で、事前に予約を受け、6 階の小会議室にて、10～15 分の面会を実施する。

看取り介護になられた方の面会も、ルール作りやその見直しを図り、最期をご一緒に過ごして頂く時間を作ることで家族様に後悔の気持ちが残らないよう支援したい。

4. 外国人職員への教育

外国人職員が増える中で認知症ケアについての理解を深めていきたい。不穏状態にある利用者様に対しては、言葉かけ等の対応の見直しや環境を整備すること、排泄ケアをきちんと行ない不安要因を取り除く事で落ち着いてもらえる可能性があることを外国人の職員にも理解してもらい、不穏になっている原因を考えてもらえるよう働きかけを行っていく。そして、施設全体の認知症ケアの実践が底上げされることを期待する。また、専門級試験や日本語能力テストの合格、介護福祉士国家資格の取得が目指せるよう支援し、将来的には長期的に働いてもらえるよう支援体制を整える。

5. ユニット目標

- ・2 西「ユニット内でコミュニケーションを図る事で、利用者様の状態を把握し、家族様や他職種への報告・連絡を行なう」
- ・2 東「スタッフ同士が協力し報連相を行ない、利用者様が安心して生活を送れるように支援する」
- ・3 西「効率よく業務が行なえ、利用者様にも安心安楽な生活を送って頂けるように職員間や利用者様とのコミュニケーションをしっかりと取る」
- ・4 西「職員同士コミュニケーションを図り、利用者様の变化にいち早く気付いて情報共有を行なう」
- ・4 東「事故件数の減少に努め、ヒヤリハットを増やして、1 人 1 人が気を付けて介助を行っていく」
- ・5 西「報告・連絡・相談の徹底」
- ・5 東「報告、連絡、相談をする。ユニットの連絡ノートを確認する」

6. 収支について

入所待機者確保のために、病院や老人保健施設などへ定期的に入所申込書を持参し、営業活動を行なう。特養申込者が少ない状況ではあるが、ショートスティとも連携をし、ロングショート候補者を増やし、ロングショートから特養入所への移行がスムーズに行えるようにする。入院者を出さないように主治医と連携を図り、稼働率 98%を目指したい。

令和 5 年度 特養研修計画(特養・ショート・デイ)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護・医療研 修	電話対応につ いて 特定技 能必須	車両操作	薬について	ポジショニン グ	リハビリ訓練 の仕方	防災について
担当者	事務所	デイ	医務	厚生 PT	長井	防災委員会
介護講習	シーツ交換に ついて	口腔体操	認知症の理 解	車椅子への移 乗	移動介助（車 いす、杖、歩 行器）	食事時の姿勢 と介助
担当者 (リーダー)	2 階西	2 階東	3 階西	ショート	4 階西	4 階東
ユニットリー ダー対象	仕事の教え方	食中毒につ いて	糖尿病	介護報酬につ いて	法令 監査	防災食につい て
担当者	有本	毛利	医務	下川	有本 世良	毛利
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護・医療研 修	AED、心肺蘇 生	認知症につ いて	腰痛予防に ついて	看取りについ て	事故予防につ いて	接遇について
担当者	医務（特養）	認知症委員 会	衛生管理委 員会	看取り委員会	リスク委員会	接遇委員会
介護講習	身じたく	排泄介助	マスク・手 袋の脱着・ 手洗いにつ いて	口腔ケア・整 容	・寝返り（姿 勢の変え る）・起き上 がり	入浴介助・清 拭
担当者 (リーダー)	5 階西	5 階東	2 階西、東	3 階西、東	4 階西、東	5 階西、東
ユニットリー ダー対象	機能訓練	認定調査	QC 活動	高齢者虐待	接遇	レビー小体型 認知症
担当者	長井	世良	船引	世良	政次	医務

令和 5 年度介護状況目標

項目		令和 4 年度 2 月末状況 (入所者 70 名) 要介護度 4.04	令和 5 年度 3 月末目標 (入所者 70 名)
日中オムツ使用率		21 名 31%	15 名 21%
入浴統計	特浴	19 名 29%	15 名 21%
	リフト浴	45 名 68%	53 名 76%
	個浴	2 名 3%	2 名 3%
食事形態	普通食	27 名 41%	34 名 49%
	刻み食	11 名 17%	13 名 19%
	極刻み食	13 名 20%	12 名 17%
	ミキサー食	17 名 26%	12 名 17%
	経管栄養	0 名 0%	0 名 0%
褥瘡者		1 名	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施※		4 名 18%	10 名 45%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者/全退所
(急死除く)

※令和 4 年度の実数は入院者除く

(単位:千円)

収入・支出・差額についての管理者意見

収入においては、入院者が多く、稼働率 98%の目標が達成できなかった。今年度は入院を少なくすることと、ショートステイとの連携を図り、入院ベッドの活用と、退所後の空床ベッドをできるだけ少なくするなど稼働率 98%を目標として収入増を見込んでいる。

IT機器導入による大きな支出があるが、早急な実用に向けての活用を行うことにより、職員の負担の軽減、業務の効率化を図り、全国人員配置基準 1 : 1.67 に近づけるようにする。

全体としては、稼働率を上げることにより、収支差額の増加を図る。

※IT 機器導入費用 令和 4 年度 2,614 万円、令和 5 年度 1,696 万円は省いています。

サンライフ土山ショートステイ

令和5年度 事業計画書（案）

本年度は、「足腰頭と心を鍛えていつまでも元気に過ごす」をモットーに利用者様には日々のケアの中で体を使ったレクリエーション・体操などを取り入れ健康状態を保てるように努める。職員一人ひとりに対しても定期的な腰痛体操をはじめ体にかかる負担への軽減を図り、役割を任せることで考える力や精神面を鍛え活気ある職場環境に繋がるように努める。新型コロナウイルスについては本年度も引き続き感染予防対策として、感染対策委員会で決まったことを職員一人ひとりが徹底することと、手洗い・消毒・うがい・マスクの着用の徹底及び不要不急の外出を控えるなど業務中・公休時に責任ある行動をとって感染防止に努めていく。

ショートステイとして、前年度は、ロングショートの定着が年間通して進まなかった為、特養への移行もスムーズに行うことが出来なかった。積極的に各事業所への訪問や契約時担当者会議時に営業活動を行い、部屋に空きができないよう、特養相談員・看護師と連携を図り稼働率向上を目指す。

1. 感染症予防

前年度は新型コロナウイルスや様々な感染症に職員・利用者様が罹患し、体調不良や発熱により職員が欠勤するケースがあった。職員が感染症を発症することによって利用者様の受け入れ制限や面会の制限が必要となり、利用者様・家族様に迷惑をかけてしまう為、本年度も感染症を出さない為に、感染症マニュアルの再確認と、周知徹底を行い、緊急時迅速に行動・対処できるようにしておく。職員においても業務中は、2回の体温測定を実施し、体調確認を行うとともに、少しでも普段と違うようであれば早退や欠勤し、受診に行き拡大しないようにする。利用者様の送迎確認の電話の際、体温に異常がないか、発熱・咳症状がないかなどの確認と同居されている家族様の体調確認を行い対応する。自覚症状がある際は、ご利用を控えて頂く等施設内での流行を未然に防ぐ努力を行う。

2. 業務の効率化と人材育成

介護ロボット（aams、タブレット、介護カメラ等）導入により業務の効率化を図り、適正な人員配置（全国人員配置基準1：1.67）を見極め、ムダを省く。ムダを省き、職員研修の時間の確保や、利用者様の機能訓練や余暇活動を充実させるなど、目的をもって仕事に取り組むようにする。

I. 技術不足の職員に対し、介護技術の内部研修を実施し、技術の底上げ・向上を図

る。また、内部研修の講師を、各ユニットやユニットリーダーに担当させることで、教える側の技術や知識の向上も目指す。責任を持たせていく。

Ⅱ. 中堅職員に対し仕事のやりがい・責任感を持たせるため、施設委員やユニット内の中心的な仕事を担っていくよう、割り振りを行う。リーダー、リーダー候補職員には、ショートステイの見学対応、予約、契約業務が1人で行えるように同席する機会をつくり指導を行う。

Ⅲ. 業務において基礎である報告・連絡・相談がおろそかになってきている。出勤後はユニットのノートに必ず目を通すこと、寿の掲示板を確認することを徹底する。また、共有すべき情報はユニットノートに記入し、職員間で積極的に声を掛け合っていき共有できるように指導を行う。

Ⅳ. 職員の健康増進の為、連続して5日程度のまとまったリフレッシュ休暇が取れるよう勤務表を組む。職員の介護疲れによるストレスが利用者様に向かわないよう適切な有給の使用を促していく。

3. 忘れ物について

アプリの効果もあり、昨年度は衣類や貴重品の忘れ物のケースは減少したが、小分けして準備してくださっている義歯洗浄剤・マスク・持参されているパッドなどの使用数を使いきれていなかったりというケースが目立った。対策として、見落とさないように保管場所の徹底と洗面所にチェック表を張り付け改善に繋げていく。また、職員によって写真を撮影する際に色別に違いがあり、首元や衣類の裏のタグに記入されているメーカーを備考欄に記入することで業務の効率化に繋げていく。昨年同様に紛失されやすい方や収集癖のある方に対しては、家族様に同意を頂き、居室に荷物を置かず、職員が管理するようにする。

4. 事故の防止

昨年度事故件数は利用人数の減少も含め減少したが、入所時からあったものか解らず退所時に発見するケースもあり、報告・連絡・相談ができていなかったことがあった。昨年度同様に持ち物アプリから写真を収める際にボディチェックも合わせていつからの傷なのか写真で収めて職員間がいつでも把握できるよう対策をとる。また、入所時に家族様からの情報を聞き取るように徹底する。家族様への報告・連絡の強化を図り信頼関係の構築に繋がるようにしていく。ヒヤリハットノートに関して記入されることが少なく、本当にヒヤッとしたことがないのか、ただ書いていないだけなのか分からない現状である。事故を未然に防ぐためにも、ヒヤリハットノートの有効活用を指導していく。また、事故が起きた際、事故報告書を出して終わりにするのではなく、その後しっかりと部署内で話し合い、必要に応じて他部署からの助言を頂き再発防止対策を徹底していく。事故予防に努め、事故件数を減らし、事故発生時にかかる労力の削減を目指す。

5. 収入・利用者様の確保

本年度も月平均稼働率上げ利用者様の獲得に努めていく。入院部屋やキャンセルの部屋が出れば都度情報を事業所へ報告を行い部屋に空きが出ないようにする。

短期間利用の方の予約は空き等もあるので満床になるよう現在利用して下さっているお客様のニーズによっては日程のご相談や提案を随時実施していく。

ロング利用者に関しては、利用者様の確保が追い付かないことが続いているので特養にスムーズに移行させるためにも新規利用希望者の事前面談など、数多く行い特養相談員や看護師と協力し、待機者の確保をすることで空きが出ないよう連携をとっていく。

令和 5 年度収支計画 ※令和 4 年度 2 月 3 月は予想である。

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入	3,351	2,987	2,208	2,792	3,282	3,151	17,771
令和 5 年度収入計画	3,921	4,038	3,886	4,040	3,998	3,914	23,797
令和 4 年度支出	3,647	2,561	4,309	3,806	2,874	2,701	19,898
令和 5 年度支出計画	3,800	2,810	4,500	3,700	2,850	2,800	20,460
令和 4 年度収支差額	-296	426	-2,101	-1,014	408	450	-2,127
令和 5 年度収支差額計画	121	1,228	-614	340	1,148	1,114	3,337
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和 4 年度収入	3,349	3,106	3,519	4,181	3,015	3,913	38,854
令和 5 年度収入計画	4,008	3,916	4,030	4,024	3,773	4,038	47,586
令和 4 年度支出	2,740	2,576	4,206	2,867	2,816	2,756	37,859
令和 5 年度支出計画	2,800	2,600	4,500	2,900	2,800	2,800	38,860
令和 4 年度収支差額	609	530	-687	1,314	199	1,157	995
令和 5 年度収支差額計画	1,208	1,316	-470	1,124	973	1,238	8,726
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率				122%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率				102%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率				877%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入においては、ロングショートの確保ができなかったことと居宅介護支援事業所への密な連絡が行えなかったことから、稼働率が 98%の目標が達成できなかった。また、年間通してロングの確保ができず特養入所への移行もスムーズに行えなかった。本年度は、営業活動の実施と感染対策を徹底し、稼働率目標は 98%として収支差額の増加を図る。

支出においては、介護ロボット導入による大きな支出が見込まれるが、業務の効率化を実施することで適切な人員配置の見極めを行い、人件費削減につなげる。また物価が高騰しているが、職員一人ひとりが節約の意識を持つことで、ムダな支出は減らすように努める。

※IT 機器導入費用 令和 4 年度 3,734 千円、令和 5 年度 2,423 千円は省いています。

特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

令和５年度 事業計画書（案）

国の新型コロナウイルス対策が５月８日から緩和され感染分類が５類に引き下がる。ただウイルスの感染力がなくなるわけではなく、日頃の感染予防の大切さは変わらない。重症化しやすい高齢者を守るために感染対策の継続と徹底が必要となる。

感染防止と同時に、利用者様への質の高いケアや安全・安心な医療・看護を提供するために、引き続き看護体制の充実に努めていきたい。

1. 新型コロナウイルス感染症対策の継続

- I. 面会の再開にあたり他職種と連携・協議を行い、利用者様・家族様が安全・安心に面会が出来るような感染対策を実施し感染予防をはかる。
- II. 感染委員会を主として、発症時に備えたシミュレーション、研修の実施。過去の集団発生の反省を行い次への感染防止に努める。
- III. 利用者様、職員のワクチン接種が安全に行え、接種後の対応が迅速にできるように協力病院と密に連携を取る。
- IV. 感染時の治療薬がスムーズに投与できるように協力病院や薬局と密に連携をとる。
- V. 発症隔離対応時は、基礎疾患が悪化・重症化しないよう異常の早期発見に努め、速やかに治療が受けられるように協力病院に働きかける。
- VI. 利用者様、職員の感染徴候出現時には協力病院などと連携し、適宜検査等施行してもらい、感染拡大防止に努める。感染兆候のある職員はこれまでと同様、出勤する前に施設長や医務等に相談するよう継続して注意喚起する。

2. 他職種と連携・協働し、安全・安心な医療・看護提供に努める

- I. 他職種とのチームケアを重視し、カンファレンス等を用い利用者様の身体・精神状態や生活機能のアセスメント・情報共有を行い、ニーズに沿ったケアを提供する。
- II. 昨年度ターミナルで看取りを同意された方は１０名であった。本年度も、利用者様の尊厳を守り、看取り介護の充実と体制の構築を目指す。
- III. 令和５年２月より皮膚科往診が開始となり、専門医による適切な治療・ケアを提供することにより、皮膚トラブルによる入院を防ぐ。各専門医と密に連携を取り入院回避に取り組むことにより稼働率９８％目標とする。

3. 安全管理

- I. 事故やヒヤリハットの原因と対策が適切であるか看護・介護間で協議していく。
介護士は生活面から、看護師は医療面と異なる視点で、利用者様にとって安全・安楽な生活が確保できるよう事故の減少と再発防止に取り組む。
- II. 転倒・転落・外傷・誤薬など事故発生時は利用者様の状態観察を綿密に行い、医療ケアが必要であるか責任を持って判断し、必要に応じたケアを行う。

4. 健康管理

- 利用者様・職員の健康・環境にも配慮し、安全・安心に過ごせるよう努める。
- I. 新型コロナウイルスやインフルエンザに対するワクチン接種を進め、発症の予防や感染拡大防止に努める。
上記感染症及びノロウイルスに関しても研修・シミュレーションを実施し感染拡大防止に努める。
 - II. 研修を行い職員の健康増進に配慮する。引き続き日々の関わりを大切にし、身体面だけでなく精神面に対しても相談できるような環境を整えていく。

5. 業務の簡素化・効率化をはかる

- I. 引き続き OJT の手法をもとに定期的に業務・環境の簡素化・効率化を図る。
- II. 残業時間の短縮に向けてアセスメント・ミーティングを行い、業務の均等化・簡素化・効率化を図る。

6. 人材育成・看護体制の確保

- I. 外部研修への積極的な参加や施設内研修を実施し、知識やスキルの向上を図る。
- II. 介護士が利用者様の状態を把握できるように伝達方法を工夫し、情報共有を行いよりよいケアが提供できるように努める。

特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

令和5年度 事業計画書(案)

今年度は、新しい非常勤職員が加わる予定の為、前年度人員不足によりできていなかった献立の充実や厨房内の清掃等を重点的に行っていききたい。

また、誰が休んでも混乱なく厨房が回るように体制を整えていききたい。

I 献立の充実について

令和4年度は前年と比べ非常勤職員が2名増員となっているが、常勤職員の退職と体調不良により出勤日数をへらす職員とが重なり、常に人員不足の状態であった。加えて、体調不良による急な欠勤も多く、手間のかかる料理を献立に入れることができなかった。今年度は人員が整い次第、フライ料理や調理工程の多い料理、新しいメニュー等、今まで出来ずにいたことに挑戦していききたい。

そして、手間を省くため使用していた完全調理済み食品も徐々に減らしていき、手作りに戻していききたい。ただ、今後も食材の値上げが続くことが予想されるため、完調品をゼロにするのではなく、上手に取り入れていききたい。

II 厨房内の清掃について

清掃に十分な時間が取れず厨房内の清掃が疎かになってしまった。業務終了前の10分程度の時間を清掃にあてていたが、それに加えて月に2回程度重点的に清掃のできる日を設け、フードや冷蔵庫のフィルター、シンク下、壁等、短時間ではできない箇所の清掃を計画的に行う予定としている。

III 厨房の体制づくりについて

現状では1人でも長期で休んでしまうとシフトが回らなくなり、特定の職員に負担がかかっている状態にある。人員に関しては、3月末に1名が退職、4月末で1名が産休に入る予定になっているが、幸いなことに1月半ばから1名、3月半ばから1名の非常勤職員が入職予定であり、人数は変わらないが通し勤務可能な職員が入ることにより、負担が軽減されると思われる。また、調味料等の発注や消耗品の補充等は管理栄養士が全て行っていたが、目安や方法、置き場所を非常勤職員にも伝え、いざという時に誰もが対応できるようにしていききたい。そして、日々の食材の発注は管理栄養士にしかできないが、現状より1週間早くに発注書を作成しておくことで、代理でFAXしてもらうことは可能である。特定の職員しか行えない業務をできる限り減らし、誰が休んでも混乱なく厨房運営ができるよう体制づくりを行いたい。

デイサービスサンライフ土山

令和5年度 事業計画書（案）

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、引き続き必要な感染対策を行いながら、経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」をもとに、コロナ禍においても、可能な限りレクリエーションや趣味活動、機能訓練等を実施し、意欲の引き出しや残存能力の維持・向上を図り、安心・安全に楽しく過ごしていただくことが出来るよう努める。デイサービスを利用することで、外出する楽しみや目的を見つけていただき、精神的な安定を図り、閉じこもり防止や社会参加に繋がるよう支援していきたい。

1. 自立支援に向けての取り組み

在宅で自立した生活を継続できるよう、利用者様及び家族様のニーズを把握し、個々の能力に合わせた機能訓練を通し、残存能力の維持・向上に努める。機能訓練指導員によるリハビリ機器を使った機能訓練だけでなく、介護予防に視点をおいたレクリエーション、健康体操、介護予防トレーニング等の実施により、楽しい雰囲気の中で、体力の増進・維持が出来るよう支援する。また、毎日実施しているセラバンド体操、おしぼり干しやタオルたたみ、週替わりで実施している外出レクリエーション等、日常生活リハビリを継続し、役割・生きがいを持った充実感のある生活を送ることが出来るよう支援する。また、音楽レクや脳トレを取り入れたレクリエーションを行い、脳の活性化、認知機能の低下予防及び維持向上に繋がるように取り組む。

2. レクリエーションの充実

月間レクリエーションの内容や新しいレクリエーションの案を職員間で話し合う機会を持ち、生活意欲の向上、生きがいづくりに繋がる多彩なレクリエーションを計画・実施する。社会参加の機会が少ない利用者様に対し、楽しみのあるイベントや季節を感じられる外出レク、創作活動等の個別レクも立案し、体や手先を動かすことで、脳への刺激や介護予防に繋げることが出来るよう支援していく。また、身体機能や脳機能の向上を目指す機能訓練の意味も含めたレクリエーションを提供する。それによってADLを高め、利用者様同士のコミュニケーション機会が増え、気分転換を図ることによりストレスが解消され、張り合いや生きがいを感じる事が出来るよう、より充実した内容のレクリエーションを実施し、家族様の負担軽減にも繋げることが出来るよう取り組む。

3. リスクマネジメント

職員の気付きを大切に捉え、ヒヤリハットや事故報告書の内容を職員全員で共有するとともに、事故原因を究明し対策を講じる。また、送迎業務においては、安全・安心を心掛けるとともに、危険個所等の確認や情報共有を図り、車両の安全管理を徹底し、事故の再発防止に努める。

4. 家族や関係機関との連携の強化

家族様との連携については、送迎時や連絡ノート、担当者会議等を通じ、利用者様の状況について情報交換を行い、職員と家族様相互の理解を深める。独居の利用者様については、別居の家族様等に必要な情報を提供する。利用者様、家族様の希望を受け止め、信頼関係を築き、安心してサービスを使っただけのように努める。居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携においては、担当ケアマネジャーに利用者様の心身の状態の変化、サービス利用中の様子、生活上の問題点、ご本人や家族様からお聞きしたこと、苦情やサービスに関する意見等、把握している情報を正確に報告・連絡・相談する。日頃からコミュニケーションを深め、連携の強化を図り、利用者様の情報を共有しながら、状態の変化に速やかに対応出来るよう努める。

5. 収入と利用者数の確保について

利用者数の確保については、月平均利用者数 31.6 名を目標とする。引き続き、月初めに利用状況報告・利用実績報告を兼ね、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所へ出向き、利用者様の写真・作品等を掲載した月間デイ新聞やチラシにて、季節のイベントや空き状況等をお伝えし、新規利用者の獲得に努めていく。既存の利用者様においては、受診や体調不良等でお休みされる際には、振り替え利用していただいたり、追加のご利用も提案していく。また、苦情・要望等の声を大切にし、改善事項が発生した場合は、速やかに対応することで、継続利用に繋がるよう努める。収入面では、前年度に算定している加算については、継続して算定していく。加算要件を再度チェックし、取得可能な加算に関しては、積極的に取得していきたい。引き続き、デイからショートステイ・小規模多機能・特養の利用へと繋がるよう、地域包括支援センター、居宅を踏まえた連携の強化に努めていきたい。

令和5年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度実績	30.6	29.7	29.7	30.3	29.1	29.3	29.8/月平均
月合計(人)	796	771	772	788	786	762	4,675
令和5年度目標	31.6	31.4	31.4	31.5	31.3	31.4	31.4/月平均
月合計(人)	790	848	816	819	845	816	4,934

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令4年度実績	31.4	30.2	30.3	31.5	31.4	31.0	30.4/月平均
月合計(人)	815	785	818	724	754	837	9,408
令和5年度目標	31.8	31.5	31.6	31.9	31.8	31.7	31.6/月平均
月合計(人)	827	819	822	798	795	824	9,819

* 令和4年度実績2月3月は予想で入れています。

令和5年度収支計画 ※令和4年度2月3月は予想である。 (単位: 千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度収入	6,226	6,125	5,844	6,346	5,913	6,397	36,851
令和5年度収入計画	6,092	6,534	6,284	6,314	6,511	6,292	38,027
令和4年度支出	5,600	4,707	5,326	5,216	4,679	4,739	30,267
令和5年度支出計画	5,450	4,957	5,476	5,320	4,829	4,889	30,921
令和4年度収支差額	626	1,418	518	1,130	1,234	1,658	6,584
令和5年度収支差額計画	642	1,577	808	994	1,682	1,403	7,106
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度収入	6,230	6,187	6,220	5,561	6,060	6,390	73,499
令和5年度収入計画	6,371	6,305	6,327	6,155	6,126	6,349	75,660
令和4年度支出	5,021	4,498	5,229	4,968	5,068	5,149	60,200
令和5年度支出計画	5,121	4,548	5,179	5,068	5,169	5,118	61,124
令和4年度収支差額	1,209	1,689	991	593	992	1,241	13,299
令和5年度収支差額計画	1,250	1,757	1,148	1,087	957	1,231	14,536
令和4年度と令和5年度計画の収入比率				3.0%増			
令和4年度と令和5年度計画の支出比率				1.5%増			
令和4年度と令和5年度計画の差額比率				9.3%増			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入においては、昨年度は月平均31.0名の目標を達成出来なかった。今年度は月平均31.6名を目標とし、利用人数増を図ると共に、取得可能な加算については、積極的に取得し収入増に繋げていきたい。支出においては、人件費での支出増が見込まれる。

サンライフ土山居宅介護支援事業所

令和 5 年度 事業計画書（案）

年間目標

土山居宅開設から、今年度で 6 年目を迎える。事業所全体の、担当件数も年間通して安定してきているが、要介護度の高い方は、在宅介護の期間も短く、施設入所を希望される家族が増えている。前年度は、要支援から要介護 2 までの方が、事業所全体の約 85% になっている。収入の安定を考え、毎月 30 件程度の在宅調査も継続する。営業活動も、できる限り継続し、地域の方から、選んで頂ける事業所を目指して行く。コロナ感染でサービスの利用が出来ない方への対応について、他事業者や医療関係者と、連携を取りながら病状の悪化を防ぎ、隔離期間解除後は、スムーズに介護サービスの利用を再開できるように引き続き努める。

I. 安定した収入の確保

- ・地域包括・介護サービス事業所・病院への営業訪問を行ない、安定し新規利用の獲得ができるようにする。
- ・要支援者の受け入れ件数を状況に応じて見直し、要介護者の件数を安定させて、収入増に繋げる。
- ・ケアマネ業務に支障ない範囲で、委託訪問調査の依頼を受ける。

II. サービスの質の向上

- ・医療・福祉・社会資源などの、課題解決に必要な情報収集を行う。
- ・在宅医、薬剤管理、訪問看護が必要な方の在宅生活が継続できるように、医療連携についての研修があれば参加する。
- ・各種研修会に参加し、外部の居宅介護支援事業所のケアマネと、事例検討や業務についての情報交換を行う機会を持ち、ケアマネジメント業務に必要な知識を身に付ける。
- ・介護保険制度について、常に勉強する機会を持ち、各種サービスの加算や、加算の算定要件など、しっかり把握する。

Ⅲ. 事業所内の連携強化

- ・事業所内の業務が円滑に行える様に、いつでも相談ができる環境を作る。
- ・事業所全体のプラン件数、個々の担当人数を全員が把握し、担当人数の偏りを無くす。
- ・全職員が苦手分野無く業務が行えるように協力する。

IV. 介護予防支援

- ・各地域包括支援センターに対し、営業活動を継続して行い、要介護者の新規依頼に繋がるように努める。
- ・委託プランについて、必要に応じて地域包括に、報告・相談を行ない利用者が自立できるプランを作成する。

※令和４年度２月３月は予想である。

(単位:千円)

[illegible]

リハビリデイサービス サンライフ御立西

令和5年度 事業計画書(案)

令和5年度ささゆり会経営スローガンである「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」に基づき、御立西での人気であるレッドコードを活かして利用者様の身体機能の維持・向上を目指し在宅生活を継続できるよう支援していきたい。

職員一人ひとりが利用者様・家族様の意向を伺うことで可能な限り希望に沿っての対応が行えるよう個々の介護に関する知識・技術を増やし介護の質を向上させていきたい。個別・行事レクリエーションの企画の恒常化を防ぐため、利用者一人ひとりに合う・好むものを把握・提供し利用者様の満足度をあげられるよう努めたい。

また、理学療法士を配置しているリハビリに特化した施設であることから他のデイサービスとの差別化を図り退院後の利用につながるよう営業活動を実施していく。

1. ケアマネ・家族との情報共有を行い在宅生活の継続を意識した支援

職員一人ひとりが利用者様・家族様の意向を伺うことで可能な限り希望に沿っての対応を行うと同時に必要に応じ各事業所に報・連・相を行っていける体制を整えたい。理学療法士を配置しているリハビリに特化した施設であることもあり退院後に利用となるケースが多いため、他サービス事業者等とも利用者様の利用時の状況や変化にも対応できるようにしていき、在宅生活を継続できるよう支援していきたい。

2. 職員個々の教育を行い介護の質の向上

令和4年度は職員の異動や産休・育休による変動が多い1年となり、また介護未経験の職員が増え職員一人ひとりの介護に対しての知識・技術の差が大きく業務内容に偏りが生じている状況である。指導表を作成し、個々の知識・技術を把握・指導によりできる業務を増やしていき介護の質を向上させていきたい。また、一人ひとりが自身にとっての介護について意見を言えるチームとなっていけるよう多職種同士の連携を強化し、各職種が意見交換できる環境を整えていきたい。

３． 恒常化したレクリエーションの改善

御立西の特色であるレッドコードを午後より実施することもあり、空き時間を使ったレクリエーションがオープン当初から大きく変わらず恒常化しているため、今年度は他事業所で実施している異動スーパーや音楽療法など新しいものを取り入れていき、一人でも多くの利用者様に楽しんで頂ける、希望に沿えるようなものを提供していきたい。

４． 収入と利用者数の確保

収入の確保については事業所評価加算が算定不可となるため収入減が予想されるため、算定できる加算があれば体制を整え収入アップに繋げたい。理学療法士によるリハビリやレッドコード・歯科衛生士による口腔ケアが利用者様より人気があることを営業活動で伝えていき新規利用者獲得に繋げたい。

令和５年度予想利用人数

(単位：人)

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
令和４年度実績	19.15	19.04	18.58	17.85	15.78	16.96	17.9 / 平均
月合計	500	495	484	464	427	442	2,812
令和５年度予想	19.0	19.0	19.0	19.5	19.0	19.0	19.1/ 平均
月合計	475	513	494	507	513	494	2,996

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和４年度実績	17.50	17.42	18.70	18.87	19.5	18.5	18.1/ 平均
月合計	455	455	505	434	468	500	5,629
令和５年度予想	19.5	19.0	20.0	19.0	19.0	19.0	19.2/ 平均
月合計	507	494	520	475	475	494	5,961

※令和４年度２月３月は予想である

(単位:千円)

収入・支出・差額についての管理者意見

収入については令和 4 年度算定出来ていた事業所評価加算の算定が不可となり年間約 250, 000 円の減収となる。支出については、人件費上昇や修繕費等が増えることを想定し支出増加が見込まれる。差額については人件費上昇のため、人件費の削減や新たな加算の算定が実施できる体制を整え収入アップしていくことが課題である。

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和 5 年度 事業計画書（案）

令和 5 年度は、職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを強化する為、外国人労働者・リーダー・個々の職員が考え、行動することにより職員の持つ専門性を向上させ、入居者様一人ひとりに目をむけたサービス提供に繋がるようにする。また、コロナが 5 類となることにより家族との面会や連携及びリストランテ・ヴォーノによる地域貢献の再開と共に、全国人員配置基準（1：1.67）に合わせた中でも質の高いサービスが提供できるようにし、また、電気代・ガス代・食材費などの高騰が続いている為、ムダを省き対策を行い、支出を抑えて行ける取り組みを継続していきたい。

1. 外国人労働者の能力の向上

I. 全ての勤務実施

現場の外国人労働者が今年度 37.5%になると予想されることから、昨年就職した特定技能実習生は全ての勤務に入れるようにする。また、夜勤帯も日本人に頼ることなく自分で考え率先して看取りや、緊急対応、緊急連絡が出来るようにしたい。

その為、日本人も含め緊急時などの対応についての AED 等を利用した研修を実施していきたい。

II. 居室担当・ケアプラン作成

外国人労働者にも居室担当を決め、日本人がサブに 6 ヶ月入るようにし、気を付ける事やケアプランを一緒に作成する。9 月からは居室担当として独り立ちさせ、ケアプランの原案も作成できるようにし、日本人と同じ介護職としての意識と自覚を持たせるようにしたい。

III. 感染対策の強化

昨年度、起きたコロナ対応では感染対策が不十分でレッドゾーンに入れる外国人職員が少なかったり、個室対応で隔離している入居者様への感染がおこるなど、感染対策が不十分であることが分かった。今後、感染をしないよう拡げないように対応出来るように、全職員一人約 30 分コロナ模擬対応で日常介護を行い、感染対応が不十分な職員（日本人を含む）をチェックし合格するまで指導、チェックをしていき、その後、実際に動けるかコロナ対応訓練を実施する。

2. リーダー担当者のチェック体制の向上

I. 業務バラツキの管理

職員間で業務のバラツキ（時間）が大きい物については、ユニット内で上手にできる職員と、そうでない職員の差異から、サービスの仕方を見直し、統一されたサービスを行えるようにリーダーを中心に上司も協力してサービスの改善を行う。

II. 誉め、そして注意しあえる環境づくり

退勤時間になっても帰らない、マスクの着用など注意が出来ていない事が多くある為、悪い事はしっかり注意し、良い事は誉め合い円滑なコミュニケーションをとることで、強いチーム作り繋がるよう徹底していく。環境的に変わらない場合には配置転換を検討する。

III. 自分で考え、実行させる。

すぐに、リーダーが答えを出すのではなく、どうしたら良いかを一人一人の職員に考え実行させていく。また、修正が必要な場合にはリーダーがフォローをして一人一人が考え行動できるようにすると共に、ユニット会議でも一人一人が自分の意見を出せるように、先に議題を出しておき、意見の少ない者から聞き取るようにしたい。

IV. 居室担当・委員会担当の強化

委員会も業務の一つだという、意識を持たせ施設長や相談員中心から委員長を中心に開催内容や進行を行う形式に変更する。また、各委員会が各月の施設研修を30分程度で研修を実施してもらい、評価をしていきたい。また、居室担当についても担当入居者の1日及び週間スケジュールを作成させ、少しでも入居者を把握させる力を向上させ、家族等との連携などをしっかり行わせ評価し、リーダー以下の職員についても責任を持って業務に当たれるよう工夫をしていきたい。

3. 生産性向上の取組み

全国人員配置基準(1.67:1)に合わせながらも質の高いサービス提供が行えるように、トヨタ生産方式の研修に職員数名を参加させ、事実に基づく管理や管理の一貫性を押さえながら業務のムダ・ムラを洗い出し業務の効率化を考えて行くと共にQCサークル活動も継続して実施していく。また、パッドの大きさについても見直しを行う。

4. 自然災害BCP作成

今年度が期限のコロナBCP、自然災害BCPについてコロナBCPが作成しているが、自然災害BCPは土砂災害対策に留まっており作成出来ていない為、自然災害が起きても入居者様に介護が提供出来るように作成を行う。また、コロナBCP同様に年に1度の災害・コロナBCP訓練を実施していく。

5. 地域貢献

コロナの影響により昨年度もリストランテ・ヴォーノを中止することが多かったが、コロナが5類感染症になることから、テイクアウト形式を定期的の実施すると共に、状況に応じリストランテ・ヴォーノでの現地開催を行いたい。また、地域の方や高校生ボランティアの参加が促せるよう調整をしていきたい

6. 収入の確保と支出

営業により入所待機者の確保及び空室を減らし入所率98%以上を目指し収入を確保してい

収入に関しては、大きな変更はないが、コロナ等の感染に気を付けて行きたい。支出についても、総合的には前年度より下がる傾向にはあるが、特に電気代・ガス代、食材費の高騰がある為、職員一同節約を意識する為に職員で目標や対策を考えていきたい。特にエアコンは使用時にガス代・電気代も併せ約一月30万円上昇する為、エアコンの温度管理などの徹底をしていき経費削減に取り込みたい。

サンライフ西庄ショートステイ

令和5年度 事業計画書（案）

令和5年度は、職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを強化する為、外国人職員・リーダー・個々の職員が考え、行動することにより職員の持つ専門性を向上させ、入居者様一人ひとりに目を向けたサービス提供に繋がるようにする。また、コロナが5類となることにより家族との面会や連携及びリストランテ・ヴォーノによる地域貢献の再開と共に、電気代・ガス代・食材費などの高騰が続いている為、ムダを省き対策を行い、支出を抑えていける取り組みを継続していきたい。

1. 外国人職員の能力向上

I. 全ての勤務実施

現場の外国人職員が今年度 37.5%になると予想されることから、昨年就職した特定技能生は全ての勤務に入れるようにする。また、夜勤帯も日本人職員に頼ることなく自分で考え率先して看取りや、緊急対応、緊急連絡が出来るようにしたい。

その為、日本人職員も含め緊急時などの対応について AED 等を利用した研修を実施していきたい。

II. 居室担当の実施・ケアプラン作成

ショートステイ職員もケアプランの原案作成を実施していく。ロングショート利用者様が特養入所する際にケアプランの原案を作成し、特養職員に引き継ぐようにしていく。外国人職員にも居室担当を決め、日本人職員がサブに6ヵ月入るようにし、10月からは居室担当として独り立ちさせ、ケアプランの原案も作成できるようにしたい。日本人職員と同じ介護職としての意識・自覚・責任を持たせるようにしたい。

III. 感染対策の強化

昨年度、起きたコロナ対応では感染対策が不十分でレッドゾーンに入れる外国人職員が少なかったり、個室対応で隔離している入居者様への感染がおこるなど、感染対策が不十分であることが分かった。今後、感染しないように、拡げないように対応が出来るようにしたい。また、確実なガウンテクニックが出来るように毎月チェックを行い、いつでも対応出来るように備えておきたい。ゾーニングやその他の感染対応が不十分な職員（日本人を含む）をチェックし合格するまで指導、チェックをして、その後、実際に動けるかコロナ対応訓練を実施する。

2. リーダー担当者のチェック体制の向上

I. 業務バラツキの管理

職員間で業務のバラツキ（時間）が大きい物については、ユニット内で時間内にできる職員と、そうでない職員の差異から、サービスの仕方を見直し、統一されたサービスを行えるようにリーダーを中心に上司も協力してサービスの改善を行う。

II. 誉め、そして注意しあえる環境づくり

退勤時間になっても帰らない、マスクの着用など注意が出来ていない事が多くある為、悪い事はしっかり注意し、良い事は誉め合い円滑なコミュニケーションをとることで、強いチーム作り繋がるよう徹底していく。環境的に変わらない場合には配置転換を検討する。

III. 自分で考え、実行させる

すぐに、リーダーが答えを出すのではなく、どうしたら良いかを一人ひとりの職員に考え実行させていく。また、修正が必要な場合にはリーダーがフォローをして一人ひとりが考え行動できるようにすると共に、ユニット会議でも一人ひとりが自分の意見を出せるように、先に議題を出しておき、意見の少ない者から聞き取るようにしたい。

IV. 居室担当・委員会担当の強化

委員会も業務の一つだという、意識を持たせ施設長や相談員中心から委員長を中心に開催内容や進行を行う形式に変更する。また、各委員会が各月の施設研修を 30 分程度で研修を実施してもらい、評価をしていきたい。また、居室担当についても担当入居者の 1 日及び週間スケジュールを作成させ、少しでも入居者を把握させる力を向上させ、家族との連携などをしっかり行わせ評価し、リーダー以下の職員についても責任を持って業務に当たれるよう工夫をしていきたい。

3. 生産性向上の取組み

トヨタ生産方式の研修に職員数名を参加させ、事実に基づく管理や管理の一貫性を押さえながら業務のムダ・ムラを洗い出し業務の効率化を考えて行くと共に QC サークル活動も継続して実施していく。また、パッドの大きさについても見直しを行う。

4. 自然災害 BCP 作成

今年度が期限のコロナ BCP、自然災害 BCP についてコロナ BCP が作成しているが、自然災害 BCP は土砂災害対策に留まっており作成出来ていない為、自然災害が起きても入居者様に介護が提供出来るように作成を行う。また、コロナ BCP 同様に年に 1 度の災害・コロナ BCP 訓練を実施していく。

5. 収入の確保と支出

現在算定している加算を継続して取得できるようにしていきたい。また、訪問での営業だけでなく、引き続き電話や FAX を入れ、次のロングショート待機者の確保及び空床を減ら

支出面としては、WEB アプリ導入代に 50 万円、その他電気代、ガス代、食材費、パット代の値上がりやゴミ袋代も約 1.5 倍の値上がりがある為、職員一同節約を意識する為に職員で目標や対策を考えていきたい。特にエアコンは使用時にガス代・電気代も併せ約一月 10 万円上昇する傾向があり、来期も更に値上がりが確実となっている為、エアコンの温度管理などの徹底をしていき経費削減に取り込みたい。昨年は特定技能生 1 名を採用し準備金として 30 万円ほどかかったが、今年度は採用が無い為その分の支出は減少する。また、昨年はコロナの影響により面会が無かったため、駐車場契約が必要なかったが、今後コロナの扱いが 5 類になり面会が再開となれば今年度は駐車場代に年間 6 万円、BOX 更新料等の増加が見込まれる。

※令和4年度2月3月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入	3, 578	4, 236	3, 668	2, 923	5, 051	3, 705	23, 161
令和 5 年度収入計画	3, 826	3, 930	3, 826	3, 930	3, 930	3, 825	23, 267
令和 4 年度支出	2, 849	2, 708	5, 431	3, 534	2, 842	2, 832	20, 196
令和 5 年度支出計画	2, 960	2, 942	4, 950	3, 474	2, 960	2, 894	20, 180
令和 4 年度収支差額	729	1, 528	-1, 763	-611	2, 209	873	2, 965
令和 5 年度収支差額計画	866	988	-1, 124	456	970	931	3, 087
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入	4, 141	3, 892	3, 759	2, 143	5, 512	3, 711	46, 319
令和 5 年度収入計画	3, 930	3, 826	3, 930	3, 930	3, 700	3, 930	46, 513
令和 4 年度支出	3, 046	2, 695	4, 864	3, 036	2, 859	3, 465	40, 161
令和 5 年度支出計画	3, 058	2, 894	4, 815	2, 989	3, 020	2, 894	39, 850
令和 4 年度収支差額	1, 095	1, 197	-1, 105	-893	2, 653	246	6, 158
令和 5 年度収支差額計画	872	932	-885	941	680	1, 036	6, 663
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率				100%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率				99%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率				108%			

収入に関しては、現在算定している内容と変わらない為、増収は見込めない。

支出に関しては、特定技能生の採用にかかった紹介料 66 万円やその他の紹介料はないものの、電気代、ガス代、食材費、パット代の値上がりやゴミ袋代も 1.5 倍程上がることからさらに支出が増えると考えられる。

グループホームサンライフ西庄

令和5年度 事業計画書（案）

令和5年度ささゆり会経営スローガンである「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」をもとに、入居者様が「役割」を持ち生き活きと生活することが、家族様にとっての安心に繋がることを理解して支援していく。

1. 入居者様や家族様との信頼関係の構築

家族様に入居者様の施設での様子を知っていただくために年4回の事業所だよりを発信する。対話・傾聴・観察を通して入居者様を理解し、居室担当職員が中心となって入居者様の様子を家族様へこまめに伝え、入居者信頼関係を深めていく。

2. レクリエーションや余暇活動の充実

認知症の進行を遅らせる、QOLの向上などレクリエーションの目的を意識しながら非薬物療法であるレクリエーション活動を行う。行事企画や食事作りなどの集団レクリエーションや買い物や外出などの個別レクリエーションにより日々の楽しみの機会を増やす。また、今までの「馴染みの関係」の継続を支援することで入居者様の生活の活性化を図る。

3. 感染症対策の継続

研修や訓練を行い業務継続ガイドライン（BCP）を都度見直しする。適切な対応ができるようガウンテクニックのチェックを月単位で行い感染拡大の防止に繋げる。

4. 自然災害 BCP の作成

自然災害の BCP を作成してコロナ BCP と同様に年1回の訓練を実施し、事業所の立地、施設の構造、停電、断水など災害時を想定して何が出来るのかを全職員で考えて作成していく。

5. 人財育成

I. 資格を持たない職員の認知症基礎研修の受講や職員個々に認知症ケア外部研修の受講を促進させ、チームケアの質を向上させる。

II. 外国人職員は、全ての業務を一人で出来るように指導していく。電話対応や救急対応などのシュミレーションを行い、外国人職員の不安の軽減を図る。

6. 収入の確保と支出

満床状態を維持し、年間平均稼働率 98%以上を目標とする。入居希望の待機者と定期(3 ヶ月ごと)に連絡を取り、情報を更新して空床期間を短くする。今後は物価や光熱費の上昇が考えられる。エアコン温度の調整以外にも、今まで以上に意識して無駄な消費がないように施設全体で節約対策を実行していく。人件費については、計画作成担当者の人員配置が変更になり 64 時間分(2 ユニット)の人員配置が必要となる。また、非常勤職員の確保が難しい中、派遣職員に頼ることなく今いる職員に長く続けてもらえる環境作りをして人員不足にならないようにしていく。

年間収入目標

※令和4年度2月3月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載 (単位:千円)

[illegible]

特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

令和5年度 事業計画書（案）

新型コロナウイルス感染症発生から3年を向かえ、未だ収束の見込みがたっていないなか、今年度より感染症5類引き下げへの移行となる。それに伴い医療現場での対応や生活様式も変化していくと思われる。施設ではウイルスを外から持ち込まない、広げないを基本とし、感染症に対する正しい知識と対策を引き続きする必要がある。

また利用者様が安全で安心した生活が過ごせるよう体調管理に留意し日々の体調変化や異常の早期発見に努め対応していきたい。

1. 感染症対策に関する研修の実施、訓練（シュミレーション）、ガイドラインの作成

昨年度当施設でも新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した。その際PPE着脱方法が不完全であったりゾーニングが複雑で理解しにくかった反省点を踏まえ、いつでも、誰であっても感染予防対策ができるように、定期的にPPE着脱方法やゾーニングのシュミレーション等の研修を、感染症委員会が中心となり、繰り返し行い、職員の感染症に対する正しい知識や行動力を向上させる。またそれに伴い新型コロナウイルス感染症に関するガイドラインの見直しを早急に行う。

2. 心療内科 往診の充実

認知症高齢者は高齢者自身が悩み苦しむだけでなく、周囲を巻き込むことが多い。環境の変化や対応によって悪化する恐れもある。現在6名の入居者様が往診を受けられている。異常行動、問題行動を起こしているのはなぜなのか、精神科医の診察や助言を受け、日々のケアへ繋げ穏やかに過ごしていただくよう援助していきたい。また、認知症に対しての知識を学びケアに反映していく。

3. 看取りへの対応の充実

昨年度6名の方を看取った。「ここで最期を迎えられてよかった」と思われるよう、入所時に家族様、入居者様の意向を聞き、看取り時期になると、その意向が反映できるよう多職種と連携しながら援助し、ケアしていきたい。今後、コロナ禍の中で家族様も最期に立ち会えるように対応していくにはどうしたらいいのか、また看取りケアがどうであったか施設長、相談員、看護師、介護職員、栄養士と振り返り（デスカンファレンス）を行う。

4. 重度化防止への取り組み

高齢者は疾患の症状の出現がない場合も多く、気づいた時には重篤化していることがある。そのため日頃から主に関わっている介護職員の「何かいつもと様子が違う」という小さな気づきを大切に、早期に嘱託医に報告・相談し重症化しないように努めていきたい。

加齢による身体機能低下に、さらに疾患が影響し肺炎や褥瘡のリスクが高くなっていく。昨年度褥瘡 10 名（病院からの持ち込み 3 名）と非常に多かった。今年度は褥瘡 0 を目標にしたい。そのためには褥瘡を作らないという一人一人意識をもってケアしていかなければならない。高齢者の皮膚は脆弱で皮膚のバリア機能も低下しており皮膚トラブルが多い。スキンケアに重点を置き対応していきたい。またポジショニング、福祉用具の見直し、栄養等を多職種と情報を共有し連携を密にしながら行っていきたい。

5. 職員の健康管理への取り組み

全職員が健康診断や予防接種が適切に受けることができるようにサポートする。年 1 回のストレスチェック実施により精神面での健康についても配慮する。また、健診結果の状況を把握し、経過フォローが必要な職員が適切に受診できているのか、仕事をする上で支障がないのか、職員一人一人が自分の健康についての意識が高められるよう働きかける。職員が体調不良を言える環境作りやコミュニケーションを図っていきたい。

6. 日常生活機能訓練の強化

認知症予防、日常生活動作の向上、誤嚥や褥瘡予防のための機能訓練を行う。現存している機能を長く維持できるよう生活の中でできる方法を取り入れ、入居者様の機能の維持を目指していく。そのためには外部理学療法士、介護職員、看護師と連携しながら入居者様一人一人に合った機能訓練を計画、実施し ADL 低下を防止する。外部理学療法士からのポジショニングやシーティング、可動域訓練等の具体的なアドバイスを受け、毎日実施、継続していき入居者様の ADL の拡大、QOL の向上を目指す。

特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

令和5年度 事業計画書(案)

昨年度は新型コロナウイルス感染症クラスターが発生し、日々の業務に追われていた。今年度はさらに各個人の能力向上に努めていきたい。また、今回のクラスターの経験を活かし急な変更等にも対応していきたい。

1. チームワークの向上

分からないこと・疑問に思ったことを、いつでも質問しやすい雰囲気づくりを行っていくためにコミュニケーションをとることを心掛ける。

昨年度は調理技術の研修会は開催されなかったが、意見を出し合い業務内容の見直しを行い、効率よく業務がまわるよう改善し、無駄を省いていきたい。

2. 献立の充実

食材費については、今年度も値上げされる食品が多数予想されるので、献立の工夫・各業者随時相見積をとり食材の質を落とす事なく食材費をできる限り維持できるように管理する。

また、今いる人材の定着・育成を図り、献立の充実や美味しい食事の提供に努めていく。

3. 衛生管理

引き続き職員で大量調理施設衛生管理マニュアルを把握し、マニュアルに沿って現在の衛生状態の見直しを行う。特に、調理機器等の消毒・殺菌方法や手袋の使い方については、1ヶ月に一度確認する機会を設ける。また、食中毒に関する情報を職員と共有し衛生管理に対する意識の向上を図る。

4. 栄養ケアマネジメントの充実

介護士、看護師と連携を取りながら入所者様の状態の把握に努め、食事を楽しんでいただき、より健康に生活して頂けるように配慮する。

5. 食事形態

今年度も普通食維持を目標とする。令和5年2月15日時点で普通食は12名(29名中)である。全ての食形態アップが難しくても、食べられるものだけでも形態をアップする対応を検討していく。

6. 子供食堂の充実

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、12月のクリスマス会のみ開催であった。クリスマス弁当とプレゼントの配布のみとなったが、新規申込みもあり好評であった。

今年度、子供食堂が再開されれば、カレーだけではなくいろいろなメニューを取り入れ満足度向上に努める。経費を抑えながら参加者の満足度を維持向上させる工夫をしていきたい。

小規模多機能ホームサンライフ岡田

令和 5 年度 事業計画書（案）

小規模多機能ホームサンライフ岡田がオープンし、3年目を迎える年になる。職員も安定してきており、利用者様個々人の身体状況・家庭状況に合わせた介護サービスを提供出来るようになってきた。今年度は感染症対策を継続しながらも、積極的に営業活動を行い、新規利用者様獲得に向けて力を入れていく。また、R5年度の「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」というスローガンにあるように、利用者様が住み慣れた自宅や地域で健康に生活が継続できるよう、通い・宿泊・訪問を柔軟に組み合わせたサービスを提供していく。

1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅での生活が継続できるよう、個々の特性に応じた小規模多機能型居宅介護計画を作成し、支援の提供を行う。支援を通して利用者様、職員間の信頼関係を深めるとともに、家族様の協力も得ながら、利用者様に必要な、通い、宿泊、訪問サービスを提供していく。

2. 人材育成

I. 通い・宿泊・訪問とサービス提供内容が幅広く、柔軟な対応が求められる機会も多いため、施設内部で研修を行い、自分たちが知りたい知識や技術を習得していく。また、サービス提供体制強化加算を取得するにあたり、小規模多機能では事業所の全従業員に対し、従業員ごとに研修計画を作成し研修を実施する必要があるため、個人ごとに興味がある研修を選択し研修予定を立て、研修を実施していく。研修はウェルスカスタマークラブ e ラーニングを使用し行う。

II. 業務において基礎である報告・連絡・相談がうまく機能せず、全職員に伝わらないことがある。出勤後必ず申し送りに目を通し、確認印を押す習慣を作っていく。申し送りに関しては、送迎や、訪問、入浴などで職員が集まりにくい状況にあるが、10:00 と 14:00 に開催し、参加できない職員は各自で申し送りの紙を確認することを徹底する。

3. 事故の防止

事故件数、ヒヤリハットともに少ない傾向にはあるが、ヒヤリハットに関しては、記入できていないのか、ヒヤリに気付いていないのかあいまいな事が多い。大きな事故につながるリスクを予防するためにもヒヤリハットノートをもっと活用していくよう指

導していく。また、新規利用者様が来られた時は事故件数が増える傾向にあるため、申し送りでも新規利用者のケースを読みあげ、全職員で知識の共有をし、事故の予防に努めていく。

4. 忘れ物防止

荷物チェックアプリの使用や、荷物の置き場所の徹底等により、荷物の返却忘れや荷物の混同などが減少してきていたが、慣れからか再び増加傾向が見られている。荷物チェックアプリだけでなく、最後に居室内に何も残っていないかの確認をするよう徹底し、持ち物の管理を行っていく。

5. 感染症予防

昨年度と同様に、新型コロナウイルスを含めた感染症対策として、うがい・手洗い・更衣・マスクの着用、消毒を継続して行っていく。送迎時の体温測定や、毎日10時の体温測定を行ない、異常の早期発見に繋げていく。また、発熱症状のある方などは、家族様、看護師、主治医と相談しながら早期の対応を行っていく。熱があっても一人暮らしの方等の場合は、訪問に行かなければならないこともあるため、職員の感染症予防意識を高めていくとともに、訪問時の感染予防用品等も充足させておく。

6. 収入・利用者様の確保

昨年度も利用登録者25名を目標としていたが達成できなかったため、今年度も利用登録者25名を目標とし、営業活動を行い利用者様の獲得に努めていく。また、利用者様の状態に応じた介護度が出ているか定期的に確認を行い、必要あれば区分変更を家族様に提案していく。加算に関しては、現在取得しているサービス提供体制強化加算ⅢからⅡに変更出来る要件が揃ったため変更を行い、収入の増加を目指す。

R5 年度サンライフ岡田研修計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護職員対象	記録について	報告・連絡・相談について	高齢者に多い疾患について	認知症について	認知症の種類について	認知症のケアについて
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護職員対象	感染症対策の基礎知識について	プライバシー保護について	事故防止とヒヤリハットについて	事故対応の心構えについて	身体拘束について	虐待について

※令和4年度2月3月は予想である。収入は介護報酬の収入を記載。 単位（千円）

収入・支出・差額についての管理者意見

昨年よりも利用人数が増えている分、収入の増加を見込んでいる。今後の収入増加には利用者様を増やすことが一番だが、登録定員 29 名に対し、1 日の通いの定員 18 名、宿泊定員 9 名と枠が決まっており、現在 1 日当たりの利用者数が枠の上限に近くなっている曜日もあり、これ以上利用者様を増やそうとすると訪問希望の方を中心に増やすか、利用日数の制限を厳しくしていく必要がある。しかし訪問件数が増加すると、現場の職員が減り、現場が回らなくなるため調整が難しく、また利用日数を減らす提案も受け入れられる可能性は低い。利用者数以外の収入増加を目指すには、要介護度 3 以上の方に多く利用して頂くこと、加算を取得していくことが必要となってくる。

支出としては、人件費等により昨年より増加が見込まれる。

デイサービスサンライフ岡田

令和 5 年度 事業計画書（案）

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」をスローガンに、特色としている体操や、買い物外出を継続し、利用者様にいつまでもお元気で若々しく過ごしていただけるようなデイサービスを目指していく。

今年度は季節を感じて頂ける外出やリハビリに力を入れ、地域の方やケアマネジャーに周知していただけるよう営業活動を行っていく。また、利用者人数の更なる増加を目指し、利用定員を 25 名から 30 名に変更し収入の増加を図っていく。

1. サービス内容の向上

外に出る機会の少ない利用者様に対して午前、午後、帰宅前と体操や脳トレを行い、運動の機会の確保や認知症予防に取り組んでいく。また、買い物外出と景色を観る外出や施設見学をそれぞれ隔週で行い、一人暮らしの方への買い物支援に繋げることや、楽しみを持っていただけるような企画を継続していきたい。

2. 人材育成について

未経験の職員も多く、介護技術や知識についてバラつきがみられている。毎月職員研修を行うことで、職員の能力向上を図り、利用者様に満足していただけるサービスが提供できるよう努めていく。

3. 事故の防止

令和 4 年度は令和 3 年度に比べ事故件数が増加した。利用人数が増加し職員が手薄となったことによる見守り不足もあるが、利用者様の行動を予測できずに起きた事故が多かった。過去の事故内容を職員間で周知し、今後の対応について話し合い、対策を徹底していくことで再発防止に努める。また、事故に繋がりそうな事例をヒヤリハット報告書に記入し、職員間で情報共有することで事故を未然に防いでいく。

4. 収入と利用者数の確保について

徐々に利用登録者数が増加してきており、令和 5 年 4 月には定員を 25 名から 30 名に変更し、更なる利用人数の増加を目指す。また、サービス提供体制強化加算Ⅲを算定し収入の増加を図る。今後、リハビリ項目を増やしていき、個別機能訓練加算が算定できるような体制を整えていきたい。継続して周辺地域へのポスティングやケアマネジャーへの営業活動を行い、新規利用者の確保を行っていく。

令和5年度目標利用人数 ※令和4年度2月3月は予想で入れています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度実績	15.31	15.08	15.35	15.93	17.04	18.12	16.14/月平均
月合計(人)	398	392	399	430	460	471	2,550
令和5年度目標	20.0	20.5	21.0	21.5	22.0	22.5	21.25/月平均
月合計(人)	500	553.5	546	559	594	585	3337.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和4年度実績	19.00	18.77	19.26	18.30	17.5	18.0	17.3/月平均
月合計(人)	494	488	520	421	420	486	5,379
令和5年度目標	23.0	23.5	24.0	24.0	24.5	25.0	22.62/月平均
月合計(人)	598	611	624	600	612.5	650	7,033

令和5年度収支計画 ※令和4年度2月3月は予想で入れています。 (単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度収入	3,240	3,211	3,257	3,451	3,656	3,410	20,225
令和5年度収入計画	4,289	4,765	4,685	4,802	5,112	4,995	28,648
令和4年度支出	3,768	3,338	4,562	3,757	3,817	3,904	23,146
令和5年度支出計画	3,830	3,830	5,470	3,830	3,830	3,830	24,620
令和4年度収支差額	-528	-127	-1,305	-306	-161	-494	-1,616
令和5年度収支差額計画	459	935	-785	972	1,282	1,165	4,028
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度収入	4,076	4,156	4,350	3,490	3,578	4,164	44,039
令和5年度収入計画	5,110	5,227	5,304	5,091	5,201	5,536	60,117
令和4年度支出	3,765	3,593	5,360	3,689	3,600	3,650	46,803
令和5年度支出計画	3,830	3,830	5,470	3,830	3,830	3,835	49,245
令和4年度収支差額	311	563	-1,010	-199	-22	514	-449
令和5年度収支差額計画	1,280	1,397	-166	1,261	1,371	1,701	10,872
令和4年度と令和5年度計画の収入比率				137%増			
令和4年度と令和5年度計画の支出比率				105%増			
令和4年度と令和5年度計画の差額比率				—			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入については、昨年は利用人数が増えたことにより増加したが、目標には届かなかった。今年度は利用定員を増やし、目標収入を確保できるよう努める。

支出については、人員の増員や物価高の影響で増加が予想される為、支出増となっている。

差額については、利用人数の増加に伴う収入増を見込み、前年度よりもプラスを予想している。

サンライフ岡田居宅介護支援事業所

令和 5 年度 事業計画書（案）

年間目標

令和 4 年 1 月に事業所を開設した。引き続き、サンライフ岡田デイサービスの利用者増を目標とする。

経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」に対し、各サービスの特色を詳しく説明し、利用者が希望する生活に少しでも近づけられるように支援することを目標とする。

管理者の変更を行うが、引き続き常勤 2 名体制である。収入については、利用者人数の増減はあるが、上限に近づけるよう、引き続き、地域包括支援センターや病院などに営業を行い、利用者の増加を目指す。

1. 担当利用者・収入の確保

常勤 2 名体制で令和 5 年 1 月時点では上限に要介護者で 8 名足らず。利用者の増減が大きく利用者数が安定していない。担当利用者、収入を確保するため、営業活動を行う。

2. サービスの質の向上

サービスの質の向上のため、要件をみたした職員から順次主任ケアマネジャーを取得するよう心がける。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で話し合いを行う場をつくり、また、各地域包括支援センターと連携を取り、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努める。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行う。

3. 有給休暇の取得について

年次有給休暇の 5 日取得に加えて休みがとりやすい環境を整えることで、リフレッシュできる機会をもつ。きちんと取得するため定期的に声掛けを行う。

4. 特定事業所集中減算の回避

訪問介護、通所介護、地域密着型通所介護、福祉用具貸与のみが対象。減算にならないように、他事業所の紹介も行う。減算対象にならないよう注意し各事業所からの情報等を収集しておき、紹介できるようにしておく。

5. 介護予防支援

地域包括支援センターとの関係構築のため、要支援の依頼があれば積極的に対応し、要介護者の新規依頼にも繋げたい。多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

6. 年間収支の予測

※収入は介護報酬の収入を記載

※令和4年度2月3月は予想である。

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入	659	705	774	956	1,013	931	5,038
令和 5 年度収入計画	1,000	930	940	940	935	935	5,680
令和 4 年度支出	898	929	1,456	1,983	940	819	7,025
令和 5 年度支出計画	900	930	1,850	2,000	940	820	7,440
令和 4 年度収支差額	-239	-224	-682	-1,027	73	112	-1,987
令和 5 年度収支差額計画	100	0	-910	-1,060	-5	115	-1,760
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入	1,021	964	1,105	854	900	900	10,782
令和 5 年度収入計画	935	935	940	940	940	940	11,310
令和 4 年度支出	864	848	1,822	894	900	900	13,253
令和 5 年度支出計画	870	850	1,850	900	850	900	13,660
令和 4 年度収支差額	157	116	-717	-40	0	0	-2,471
令和 5 年度収支差額計画	65	85	-910	40	90	40	-2,350
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率				105%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率				103%			
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率				%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入は、担当人数を安定して確保できない（入所、長期入院、永眠等）現状から考え、現状維持しつつ、徐々に増加で考えた。

支出は、常勤2名体制であり人件費が多くを占めている。

差額は、収入が増加しても支出が多く、マイナスとなる。

特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和5年度事業計画書（案）

今年度は「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく暮らしましょう！」を経営スローガンに掲げ、日常の生活動作に身体を動かす機会を増やし、健康維持に努めていきたい。また、一部生活区域を制限しているフロアにおいては、入居者様が閉塞感を感じることなく、活き活きと生活する事ができるよう、採光が良く、広々としたエリアで食事が提供できるよう環境整備に努める。コロナ感染症予防を継続し、社会情勢に合わせて、面会や外出等、入居者様と家族様がコミュニケーションを図れる機会を設けていきたい。燃料費及び物価高騰の中で水光熱費を節約し、介護用品の購入においては用途や必要性を詳細に検討する。職員個々においてはコスト削減の意識を高める為、申し送りや職員会議等で支出の経過を発信し、支出を少なくしていきたい。

1. 足腰頭と心を鍛えて、元気に楽しく生活ができる取組

- ①入居者様個々の身体状況に応じた、動作を意識し、立つ、歩く、座る等の動作を強化する。
車いす等の介護用品を使用するにあたり、過剰な介助に繋がる可能性を考慮し、適切に使用する。電動エアマットや低床ベッド（見守りセンサー内蔵）、フレックスボード等の介護用品を使用し、入居者様個々の状態に合わせた介助を実践していく。
- ②入居者様の ADL 状態に応じた運動を前年度と同様に継続し、実践する。午前にラジオ体操を行い、午後の入浴後に軽作業（洗濯物たたみや袋作り等）を行う。個別に対応できるよう、入居者様と関わる時間を設け、一人ひとりの性格や介護ニーズを詳細に把握し、介護サービスを提供する。
- ③特養Bユニットにおいて、感染症対策の為、一部生活区域を設定し、過ごして頂いている。閉鎖的な環境が続いている為、特養Aユニット（本館2階）のエリアまで誘導し、昼食とおやつを提供する。特養Aユニットのエリアにおいては、採光が良く、座席のレイアウトをゆとりのある配置で行い、広々とした空間で気分転換を図って頂く。入居者様及び家族様が清潔かつ快適に生活が送れるイメージを持って頂く為、不要な物品（介護用品や備品等）を5月までに撤去し、居室の整理整頓（衣類や雑貨の収納）、照明の随時点検、床の随時清掃等を行い、施設内の美化を向上させる。
- ④コロナウィルス感染症の社会情勢において、感染症対策が緩和された場合、対面での面会及び外出を再開し、入居者様と家族様とのコミュニケーションを図れる機会を増やしていきたい。入居者様が楽しみにしている、音楽療法やボランティアの受け入れを再開していきたい。

2. 感染症予防対策及び災害発生時における事業継続の取り組み

- ①大規模な感染症や大災害が発生した場合においても、事業継続が行える体制を作り、入居者様の健康や生命が保たれるように安全を確保し、必要な介護サービスを提供する。施設内で感染症が発生した場合を想定した、感染症対策訓練を3ヶ月に1回実施する。(防護服の着脱方法、ゾーニングを実施する)
- ②入居者様の健康観察(毎日の検温)を継続し、体調変化の早期発見に努める。
- ③適切な冷暖房(冷やしすぎず、温めすぎず)を使用し、定時での換気時間を設ける。
- ④災害時の避難訓練(火災、水害又は地震等)、基幹福祉避難所開設訓練を行い、初動対応、備蓄品管理場所の確認、避難所の設営等、災害時のシミュレーションを行う。

3. 経営の安定化への取り組み

I. 入居者様の確保拡大への取り組み

- ①日常生活の様子、ケアの方法(全入居者様への褥瘡ケアや介護用品の使用例等)、美味しい食事の提供(厨房が自前であること)、施設内での感染症対策等、SNSを活用し、施設紹介としてサンライフ魚崎での特色やケア方法等の取り組みを外部に発信していく。

II. 年間稼働率目標値99%以上への取り組み

(稼働率%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和4年度 (実績)	100	97.7	98.1	95.1	98.7	100	99.4	99.2	94.6	97.4	98.7	100	98.2
令和5年度 (目標)	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99	99

※令和4年度2月・3月は実績見込み

- ①ショートステイと連携し、ロングショート利用者数10~12名を定数として、(特養入所待機者4~6名程度)退所後、直ぐに特養へのスライド入所へ移行できる体制を整える。
- ②ロングショートの空室数を考慮し、在宅や介護老人保健施設等の申込者から、特養へ直接入所できる候補者の確保を行う。※前年度はロングショート待機者確保が困難な期間が生じ、ショートステイ空室が増加した為。
- ③長期入院者や短期間で入退院を繰り返す入居者様に対して、家族や病院へ早期退院又は状態に関する情報収集を行い、特養での対応が困難な場合はショートステイ等の利用又は一時退所も含め、早めの働きかけを行う。

III. コスト削減への取り組み

- ①毎月コストを比較できるように、水光熱費や介護用品の使用量を発信し、コスト削減への意識を高める。その際、介護用品の用途や必要性の検討を詳細に行う。冷暖房のタイマー管理を行い、適切な空調管理を設定する。

Ⅳ. 令和５年度収支計画

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
令和４年度収入実績	12,029	12,244	11,751	11,966	12,370	12,034	72,394
令和５年度収入計画	12,100	12,503	12,100	12,503	12,503	12,100	73,809
令和４年度支出実績	9,262	8,797	15,875	9,441	8,661	8,812	60,848
令和５年度支出計画	10,198	10,538	15,508	10,538	10,538	10,198	67,518
令和４年度収支差額	2,767	3,447	△ 4,124	2,525	3,709	3,222	11,546
令和５年度収支差額計画	1,902	1,965	△ 3,408	1,965	1,965	1,902	6,291
	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	小計
令和４年度収入実績	12,551	12,136	12,064	12,303	11,258	12,503	145,209
令和５年度収入計画	12,503	12,100	12,503	12,503	11,279	12,503	147,200
令和４年度支出実績	8,743	9,208	15,772	9,362	8,428	9,362	121,723
令和５年度支出計画	10,538	10,198	16,942	10,538	9,518	10,538	135,790
令和４年度収支差額	3,808	2,928	△ 3,708	2,941	2,830	3,141	23,486
令和５年度収支差額計画	1,965	1,902	△ 4,439	1,965	1,761	1,965	11,410
令和４年度と令和５年度計画の収入比率				101.37%			
令和４年度と令和５年度計画の支出比率				111.56%			
令和４年度と令和５年度計画の収支差額比率				48.58%			

※介護職員ベースアップにおける補助金のみ計上（その他の補助金は除く）

※令和４年度１月・２月・３月は実績見込み

収入・支出・収支差額についての管理者意見

令和５年度の収入において、令和４年度は稼働率（98.2％）が目標数値に達成しなかった為、令和５年度は目標数値（稼働率 99％）を設定し、200 万円程度の増収を目指す。特養及びショートステイの空室数を出さないよう、待機者確保（ショートロング利用者を含む）をショートステイと連携して行う。その際、ショートロング利用者以外での入所候補者を確保し、ショートロング利用者数の状況に応じて、入所を進めていく。

支出においては水光熱費（水道、電気等）、介護用品及び消耗品が高騰しており、光熱費の節約（エアコンのスケジュールタイマー管理等）、介護用品の必要性を詳細に検討する等、コストを削減していきたい。人件費は昇給額 2.28％前後を想定し、余剰な人員にならないよう、少数精鋭のチームで効率的に業務を進めて行きたい。年間を通して必要な研修（高齢者虐待、身体拘束、事故防止、ハラスメント等）を行い、介護の知識や考えを習得していく。チーム内に外国籍の職員が多い為、業務の簡素化を行い、円滑なコミュニケーションが図れる環境を作っていく。

以上

令和5年度魚崎高齢者介護支援センター（短期入所生活介護）

事業計画(案)

令和5年度経営スローガン「足腰頭と心を鍛え、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう」に基づき、感染防止対策を継続しつつ、昨年度に引き続き朝のラジオ体操やYoutubeを活用した体操の実施、手作業や脳トレ等の普段のレクリエーションの充実を図り、楽しい毎日を過ごして頂けるよう職員一同取り組んでいく。

利用者確保に向けて、ケアマネジャーや家族様との密な連絡、報告を行い信頼して頂けるよう関係性を構築していく。また入居部署との連携を強化しロングショートステイの候補を確保する事で、ショートのみならず施設全体の入居者確保に努める。

1. 楽しく快適で安全な生活を提供

I. 感染予防を行いながら、「またサンライフのショートステイを利用したい」と思ってもらえるような、ご利用中の生活が楽しくなるような環境の提案。

(1) 朝のラジオ体操の他に、午前中と午後（11：00（担当早出）と16：00（担当遅出））YouTube等を活用し、身体を動かす時間を作る。

脳トレや軽作業を充実させる為に、入浴担当者をレクリエーション担当とし、毎日最低でも1つは個別レクやレクリエーションを行う。（10：30～11：30（担当早出））

(2) ロングの方対象に気候の良い時の散歩や、フロア内の歩行訓練（10：30～11：30）の実施。（午後入浴担当の職員が午前中に実施）

II. ケアを行うときだけでなく、日頃から利用者様と積極的に話をしに行くようにし、その利用者様が何がお好きで、何が不安なのかを「職員自身が見つけ」より良いケアに繋げていけるようにコミュニケーションを図る。また、利用者様のケアに対して、各職員が「積極的にケアについて発信、相談していける」チームを構築する。

III. 居室・フロアの整理整頓、居室の布団を整える・靴を揃える・ダンスの中の整理といった事を担当職員が中心となって職員一人一人が心がけ習慣化する。チェックリストを作成し、毎月定期的に行うようにする。

共有のものに関して次使う人が使いやすいように片づける、元あった場所に物を置く、といった基本的な事を意識的に行っていく。

無駄な物が置きっぱなしになっていないか、廊下やフロア、ベランダ等の整理整頓を定期的に行う。

2. 安定した利用者確保

I. 送迎時を利用して家族様とのコミュニケーションを図り、「何かあった時のみの報告」ではなく、こちらでのご様子をお伝えするようにし、日頃から信頼して頂ける関係性の構築に努める。また、こちらでのご様子で気になる事や、ご自宅でもお困りではないか家族様におご連絡させて頂き、家族様が抱え込まないようにいつでもご相談受け

るようこちらから積極的にコミュニケーションを図るようにする。

利用者様の変化や、ご利用中の気付きに対し、その日のうちに担当ケアマネージャーへ連絡し、解決策やケアに対する提案をアプローチし「サンライフのショートへ行くと本人の様子をしっかりと見てくれて、ケアの見直しを積極的に行ってもらえる。困った時にはまずサンライフに相談しよう」と思ってもらえるショートステイを目指す。また、その事により新規利用者の獲得、リピーター率を上げ、利用者様の状況や家族様の負担軽減の為に利用日数の延長の提案、ロングショートステイのご利用の提案を積極的に行う。

- Ⅱ. 引き続き安定した利用者数獲得の為、特養、ケアハウス等の待機者や他施設の入居を希望される方々も含めた施設生活希望者を積極的に受け入れられるよう、情報収集を行う。又、施設入居された際の利用者数減少も見据え、ロングショート枠を毎月10名確保し、希望があればなるべく短期間で受け入れが出来る体制を確立する。

Ⅲ. 日中利用者数目標

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度実績見込み	577	594	524	588	577	540	512	493	465	515	490	500	6,375
令和5年度目標	560	575	560	575	575	560	575	560	575	575	530	575	6,795

- ・令和4年度1月、2月、3月は見込み・日中利用者数1日あたり、平均18.5名を目指す。

3. 収支計画

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度収入実績	6,980	6,808	6,381	6,747	7,341	6,651	40,908
令和5年度収入計画	6,400	6,500	6,400	6,500	6,500	6,400	38,700
令和4年度支出実績	5,871	5,173	9,439	5,725	5,448	4,896	36,552
令和5年度支出計画	6,000	5,100	10,000	5,000	5,100	5,100	36,200
令和4年度収支差額	1,109	1,635	-3,058	1,022	1,894	1,755	4,357
令和5年度収支差額計画	400	1,400	-3,600	1,500	1,400	1,300	2,400
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度収入実績	6,557	5,499	5,000	5,000	5,000	5,000	72,964
令和5年度収入計画	6,500	6,400	6,000	6,000	5,500	6,000	75,100
令和4年度支出実績	5,601	4,993	9,430	5,400	5,400	5,400	72,716
令和5年度支出計画	5,500	5,500	10,000	5,500	5,200	5,200	74,100
令和4年度収支差額	956	506	-4,630	-400	-400	-400	248
令和5年度収支差額計画	1,000	1,100	-4,000	500	300	800	1,000
令和4年度と令和5年度計画の収入比率							102%
令和4年度と令和5年度計画の支出比率							101%
令和4年度と令和5年度計画の収支差額比率							113%

令和4年度12月・1月・2月・3月は見込み

4. 介護資源を大切に使う

エアコンはタイマー設定し消し忘れを予防し節電を行う。入浴時のシャワーを出しっぱなしにしない様注意喚起を行い、手を洗う際は、水道を出しっぱなしにしない。

日中のパット類は基本的に小パットを使用。無駄に大きなパットを使用しないようその方に合ったパットの使用方法を昼の申し送りの際に再検討を実施する。

排泄介助・感染対応時の手袋以外はビニール手袋を使用し、コスト削減に努める。

5. 人員構成力の強化

- I. 介護福祉士・介護支援専門員試験を受けられる職員については、常勤・非常勤にかかわらず積極的に受験できる様、部署全体でバックアップし、積極的な研修等の参加が行えるようシフト調整等を行う。
- II. 職員の資質向上を目指し、常勤職員全員が外部研修やズームでの研修に参加できる様、研修案内等の情報収集を行い、積極的に参加し研修報告書を作成し、他の職員へ発信（研修）をする。
- III. 運転免許を所持している職員について、相談員、主任を中心に、運転研修を行い、緊急時の送迎可能職員確保へと繋げていく。

6. 災害や感染症対策に関わる体制整備

- I. 感染症や災害が発生した場合であっても、利用者様に必要なサービスが継続して提供できるよう、職員配置の体制整備やガウンテクニック等の感染予防の研修を行う。
- II. 災害や感染症に備え、感染予防物品やその他物品を感染対応委員が、月に1回確認・点検を行う。

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

令和 5 年度事業計画書 (案)

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう！」をスローガンとしてコロナ禍から新たな局面を迎えようとしている社会と並走しつつ安全・安心を確保できる看護をめざす。

1. 感染予防の継続

- I. 社会の新たな方針、それに対して利用者様の反応を鑑みながら適応できるよう、各部署と個々の細やかな相談をしながら対応していく。
- II. 基本の感染予防対策、特に初動の対策が維持継続できるよう定期的に物品の保留数、配置、手技等を繰り返し確認し発信していく。
- III. 感染拡大防止としては、特養・ショートロング入居者への拡大を最大限予防することを基本に考案する。

2. 嘱託医の変更

- I. 嘱託の変更に伴い薬局も変更となる為、医師、薬剤師と共に情報伝達等具体的に、しっかりとコミュニケーションを取りながら円滑に業務の引継ぎを行う。
- II. この機会に有事に備えたストック薬の見直しと、1 週間分の定期薬の保留を依頼し確保、管理する。
- III. 週単位でのスケジュールが変更される事に合わせ、業務内容を見直し、効率の良い業務進行できるよう改善していく。
- IV. 回診の対応 Ns はリーダー制から持ち回り制に変更し、正しく効率よく報告する為に Ns 間での勉強会を定期的に行い知識向上を図る

3. 事故防止について

- I. 看護師間での伝達事項を確実にを行うために特養、ショートそれぞれの業務進行表を充実させ、活用する。
- II. スキンテアが常に発生する状況が続いている。介護職と共に処置を行う事で、個々に経過観察のポイントや今後の対策等を説明指導しスキルアップできるよう働きかける。又、無駄な使用物品の重複を避け、要領良く入居者様の負担の軽減も図る
- III. 医務からの指示ではなく介護職で注意喚起の方法や伝達を考えて対応していけるような声かけ、発信をしていく

以上

令和 5 年度魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業計画書（案）

前年度は、様々なサービスの見直しやケアマネジャーへの営業等、対策を行うも、安定した新規の利用者獲得が難しく、業績は中々回復しなかった。

今年度は、経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう」をベースに、利用者様やケアマネジャーから選んで頂くにはどうしたら良いのかを一から考え、フロア配置や新しいサービスなどを一から考え直し、皆様に選ばれる「楽しく元気になるデイサービス」を目指し、安心して任せられると認識してもらえる存在になる事で、利用者様増加を目指す。

1. 「楽しく元気になるデイ」を目指して

- I. 4月、デイフロアのレイアウトを変更。全体的にコンパクトにする事で、利用者様同士や、職員との距離感を縮め、利用者様にとって楽しく安心して過ごす事が出来る様にする。又、「見える所に物を置きすぎない」を徹底し、すっきりきれいで、楽しくいつでも関われる雰囲気を作っていく。
- II. デイサービスの基本方針「いつまでも元気に楽しく」の元、運動・リハビリサービスを重点強化する為、リハビリ専門家や器具を取り入れたサービス導入を行い、個別機能訓練加算を取れる専門プログラムを行い、元気な利用者様も取り込んでいけるサービスを提供する。
- III. 「職員から提案される限定された楽しみ」から、「利用者様がしてみたい自己決定した個々の楽しみ」実現の為に、ボランティア・レクリエーション担当を設置。職員だけではなく、ボランティアセンターや、神戸シニアポイントボランティア、地域のボランティアの方々の情報を集め、麻雀、囲碁、編み物、書道等を利用者様と共に楽しんだり、掃除や消毒等の雑務をお手伝いして頂く事で、職員が利用者様と関われる時間を作る事が出来る等、様々に提供できる楽しみを増やしていく。又、同時に「楽しみ」はレクリエーションだけではなく、食事、入浴、雰囲気等多岐に渡る検討を行う為に、毎月相談員を中心に、サービス提供会議を開催。常に「楽しみとは何か」を考え、実現させていく。
- IV. デイサービスの課題や対策、意思統一を図る場として、毎月1回相談員・リーダー会議。奇数月に職員会議を開催する。
- V. 利用者及び利用者家族へ、年2回のアンケートを6・11月に実施。デイサービス運営の評価と共に、デイサービスに何を求めておられるのか、どのようなサービスを受けたいかを確認し、反映させていく。

2. 利用者様の安定的確保

- I. 毎月、相談員、リーダーが手分けをし、事業所訪問を実施。デイサービス利用者様の状況報告、空き情報や新しい取り組み等のチラシ配布、説明だけではなく、ショートや特養等の情報も把握し、会話等の中でケアマネージャーの相談に乗れるようにする。又、利用にあたり課題がある時は、デイ利用検討会議を開催。断らず、出来る限り利用して頂ける方法を模索する事で、ケアマネージャーや利用者様等にサンライフならば応えられると信頼してもらえる様、対応していく。
- II. 毎月の利用者様や体験の方の報告等については、各職員が手分けをし、写真等も用い、分かりやすくどのように過ごしているのかを作成し、伝えていく。又、それ以外でもこれまでは様子を見ていた軽微な変化も含め、相談員、リーダーが窓口となり、ご家族様やケアマネと日々細かく電話、FAX 等を用い共有する事で、安心と信頼、そしてデイではどのように過ごす事が出来るかを広く伝えていく。
- III. 近年、情報収集の重要なツールとなっているデジタル面において、デイサービスの紹介や取り組み、利用料金、空き情報、利用者様の近況等も含め、ケアマネージャーや利用者様に対し、より多くの情報発信が出来るよう、6月末までにホームページ作成や LINEWORKS を検討し、導入する。

3. 職員資質向上・資格取得

- I. 今年度は、「接遇」資質向上の為に、接遇委員会を中心に、奇数月にデイ職員接遇研修を実施。言葉使いや認知症の方に対する対応方法等を学んだり、前月の反省点等を話し合う機会とする。
- II. 勤務調整を行い、接遇委員会を中心に「接遇」に関する外部研修に参加する。
- III. 職員の無資格者に対して、必須となる認知症介護基礎研修への受講を行う。

4. 設備機器の整備・点検、節約・節減への取り組み

- I. 節約の意識づけの徹底。張り紙等による啓発を行う。又、毎月の支出を細かくデータとして出し、支出計画と比べ、職員に目で見分けるように明確にする事で、どの部分を節約していくか職員自身が意識していく。
- II. 障子の破れや電球、送迎車の点検等、相談員、リーダーを中心に、適宜確認し、補修していく。
- III. デイフロアをコンパクトにする事で、電気やエアコン等を限定し、使用する事で、節電へと繋げる。

5. その他

- I. 感染症や災害が発生した場合においても、デイサービス事業を止めず、継続して利用者に必要なサービスを提供する為の事業継続計画(BCP)の作成と体制作りを行う。

6. 利用者目標人数と目標収支差額

令和5年度目標人数 (単位：人) ※令和4年度2月、3月は見込み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
R4年	578	575	560	532	526	493	
月平均	22.2	22.1	21.5	20.4	20.4	19.7	
R5年	500	553	546	572	621	624	
月平均	20.0	20.5	21.0	22.0	23.0	24.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年	524	481	502	449	(456)	(513)	6,189
月平均	20.1	18.5	19.3	18.7	(19.0)	(20.0)	20.0
R5年	650	663	650	612	625	676	7,292
月平均	25.0	25.5	25.0	25.5	25.0	26.0	23.5

令和5年度目標収入 (単位：千円) ※令和4年度1月、2月、3月は見込み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度収入実績	5,166	5,180	4,924	4,456	5,041	4,436	29,203
令和5年度収入計画	4,212	4,900	4,800	5,180	5,700	5,720	30,512
令和4年度支出実績	4,843	4,325	6,202	4,496	4,347	4,410	28,623
令和5年度支出計画	5,484	5,034	6,934	5,034	4,941	5,084	32,511
令和4年度収支差額	323	855	-1,278	-40	694	26	580
令和5年度収支差額計画	-1,272	-134	-2,134	146	759	636	-1,999

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度収入実績	4,703	4,259	4,212	4,000	(4,012)	(4,514)	54,903
令和5年度収入計画	5,775	6,100	5,775	5,600	5,700	6,180	65,222
令和4年度支出実績	4,938	4,618	6,800	(5,070)	(5,070)	(5,200)	60,319
令和5年度支出計画	5,634	5,284	7,534	5,684	5,684	5,834	68,165
令和4年度収支差額	-235	-359	-2,588	-1,070	-1,058	-686	-5,416
令和5年度収支差額計画	141	816	-1,759	-84	16	346	-2,523

令和４年度と令和５年度計画の収入比率	119%
令和４年度と令和５年度計画の支出比率	112%
令和４年度と令和５年度計画の収支差額比率	49%
収入・支出・収支差額についての管理者意見 令和４年度収入は計画を大きく下回っており、収支が逆転してしまう結果となった。令和５年度は、４～６月でデイサービスのレイアウト変更やケアマネへのアプローチ等行う事で利用者獲得への土台を固め、それを続ける事で、毎月収支が逆転しない様に、収入前年比120%を目指していく。また、支出に関しては、物価や光熱水費の高騰が見込まれるが、節水、節電の意識を高め、デイの使用区画を限定する等の対策を実施。材料費、日用品等は使用量のデータを毎月とり、見直し等を必ず行う。使用区画をコンパクトにする事で、効率的に動けるようにし、少ない人員でも質の高いサービスが出来る様にしていく等、コストが膨れ上がらない様に対応していく。	

以上

令和5年度フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

事業計画書（案）

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう！」をスローガンに、感染対策を継続しながら、引き続き体操・廊下歩行・散歩（日光浴）・家事・自立支援を強化してやりがいを作る。楽しみながら身体を動かし、YouTube を上手に活用し、心身ともに健康の維持に努める。又、感染状況に合わせ、面会、外出、音楽療法、華道教室等も再開し、心身ともに元気にお過ごし頂けるよう取り組む。

入居者様の安定的確保の為、情報の発信をタイムリーにおこない、他部署との情報交換、連携をおこない、入居者様確保に努める。

1. 足腰頭と心を鍛え、やりがい・楽しみ作りで心身共に健康

I. 個々の好きな事、個々にあった楽しみ余暇活動の実施。

II. 個々のできること・家事（掃除・洗濯・料理等々）を無理なく楽しくできるよう、やりがい・自立支援を継続していく。YouTube を上手に活用し、職員の業務負担を軽減しながらも、入居者様に充実した時間を提供する。五感を使ったリラクゼーションも実施（音楽・アロマ・旅行風景映像鑑賞・おやつ作り・出前・等々）

III. ゆったり時間も大切にしつつ、時間を持て余す事なくメリハリのある生活を提供。

IV. 日課として、家事、廊下歩行(午前と午後の2回)、散歩、日光浴・体操・口腔体操(昼食前と夕食前)・手や頭を使う余暇活動の継続。ベランダの活用。

V. 便秘体操・体操等を YouTube を活用し実施。

VI. 5月以降、外出、音楽療法や華道教室等再開する。

VII. コロナ緩和に伴い家族様との面会再開。室外の面会をする（玄関前や散歩時等）

VIII. 家族様の不安・不満緩和の為、引き続き web 面会、毎月の手紙で写真掲載を継続し、こまめに様子をお伝えし信頼関係を築く。

IX. 食の楽しみを提供。食事で元気になる。食事作りで五感を刺激。季節感のある食事。安心・安全・美味しい食事の提供に加え、月1回郷土料理・出前等を取り入れ、食の楽しみを増やす。(R4年より食費が定額負担となった為、食材料費と質のバランス維持・向上にも努める。)

2. 入居者様の安定的確保（お客様は何を望んでいる？何を見ている？）

気持ちの良い対応、明るい雰囲気、清潔感、安心感、入居者様の様子や表情が良いか？楽しそうか？職員の雰囲気や対応・認知症状が緩和し安心して生活できるか？食事は美味しいか？金額等々

I. まずはグループホームのことを知って頂く。金額、雰囲気、サービス内容、空き状況等、タイムリーに情報提供、発信をおこなう。訪問・掲示・広告を提携病院や薬局等に置いてもらえるよう働きかける・SNSの活用等。

- II.見学時明るく挨拶。問い合わせに親切丁寧な対応。知りたい情報の提供（問い合わせ対応マニュアルを見直し、管理者以外もしっかりと説明できるようにする。）
- III.すぐに電話に出られないことが多い為、気持ちの良い電話対応方法を徹底する。
EPA 職員の対応方法も細かに決めておく。
- IV.他部署と連携をおこなう。運営会議時、グループホームの状況を伝え、入居希望者の情報を得る。ロングショート等活用し確保に繋げる。
- V.整理整頓・季節の花や飾りを随時かえる。明るい環境作り。障子や壁の剥れや汚れを放置しない。汚れ等見てみないふりはせず、常にきれいな環境作り。目の行き届きにくい場所や汚れやすい場所をリスト化し、定期的に清掃・整理を行う。無駄な空間を見つけ利用検討。（以前エアコン設置場所を棚に作り替える等々）
- VI.管理者・リーダーの現場業務以外の時間を作り、入居候補者の確保業務を行い2か月に1回入退居判定会議を実施。常に待機者を一人以上確保する。
- VII.介護が重度化すると職員の負担も過多となりケアも行き届きにくくなる為、入居判定会議で適時転居検討も実施。ADL 低下時介護認定の変更申請も速やかに実施。
- VIII.体調管理、事故予防に努め、極力入院とならないようサポートに努める。

3. 人材育成

- I.認知症ケアのプロとして、接し方・対応の仕方、精神的ケアを全職員が認識し、常に安心感を与える対応を徹底する。
- II. 認知症研修と職員会議を（5月8月11月・2月）、正職員会議を（4月9月1月）に実施し、認識の強化・意欲の向上・ケアの統一・スキルアップを行う。
- III.申し送り時フロア会議をおこない、個々のニーズに向き合い、話し合い、皆で統一したケアを実施。
- IV.感染委員会を中心に、感染症発生時の研修を3か月に1回実施する。
- V.感染症や災害が発生した場合であっても、入居様に必要なサービスが継続して提供できるよう、体制作りや研修をおこなう。又、災害や感染症に備え、感染予防物品は感染委員会が、非常食は管理者が、確保、確認・点検を行う。
- VI.光熱費・物価の高騰の為、コスト削減の意識を高める。正職員を中心に節約を常に啓発する。無駄な出費を無くし、レク物品やリハビリ物品を購入する。
- VII.無資格者における「認知症介護基礎研修」の受講を実施していく。
- VIII.職員がハラスメントを理解・意識できるよう研修を実施。働き易い職場を構築。
- IX.介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修等資格取得を推進する。

4. その他

- I. 気持ちのゆとりを持って働けるよう、メンタルヘルスの講師への相談や人員調整・業務調整にて職員の心身の健康管理に努める。
- II. 職員の心身のリフレッシュの為3日以上連続休暇をとる。生活支援休暇も活用。
- III. 各階一部屋増室を検討中。1ユニット9名定員とし収入増加を図りたい。
- IV. 加算項目…①初期加算 ②入院時費用 ③認知症ケア加算（I） ④サービス提供体制強化加算（I）ロ ⑤介護職員処遇改善加算（I）

5. 年間稼働率

(単位%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
R4 年度実績	100	100	100	100	97	100	100	99	95	100	(100)	(100)
R5 年度目標	100	100	100	100	100	100	100	100	98	98	100	100

6. 令和 5 年度収支計画

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入実績	5,748	5,796	5,700	5,817	6,170	6,078	35,309
令和 5 年度収入計画	5,550	5,650	5,550	5,650	5,650	5,550	33,600
令和 4 年度支出実績	5,094	4,753	8,455	5,162	5,143	5,377	33,984
令和 5 年度支出計画	5,100	5,000	8,600	5,200	5,300	5,500	34,700
令和 4 年度収支差額	654	1,043	-2,755	655	1,027	701	1,325
令和 5 年度収支差額計画	450	650	-3,050	450	350	50	-1,100

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入実績	6,005	6,261	5,858	(5,900)	(5,700)	(5,900)	70,933
令和 5 年度収入計画	5,650	5,600	5,500	5,500	5,450	5,700	67,000
令和 4 年度支出実績	5,241	4,968	(8,390)	(5,350)	(5,000)	(5,100)	68,083
令和 5 年度支出計画	5,300	5,000	8,630	5,400	5,100	5,100	69,230
令和 4 年度収支差額	764	1,293	-2,532	550	700	800	2,900
令和 5 年度収支差額計画	350	600	-3,130	100	600	600	-2,230
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率	94%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率	101%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収支差額比率	76%						

収入・支出・収支差額についての管理者意見

- ・令和 4 年の収入増加は、食費が定額負担となったことが大きい。引き続き食事の質は落とさず、食事の楽しみを増やしながらかも、食材料費削減に努める。
- ・入院を防ぎ空室削減を図る。(①毎日の運動と自立支援により下肢筋力の維持向上に努め転倒事故を予防する②感染防止対策の継続③病気早期発見等)・安定的な待機者確保の為、入居判定業務を定期的実施し、情報の発信、各部署との連携に努める。
- ・物価高騰、光熱費の値上がりの為、支出増加が見込まれる為、更に職員全員に、一人一人のコスト意識を向上させ、無駄をなくし節約し光熱費の削減に努める。

7. 年間活動計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴強化	接遇強化 散歩日光浴強化	接遇強化 食中毒予防	接遇強化 食中毒予防	事故防止 熱中症予防	事故防止 熱中症予防
研修・会議	感染症研修 正職員会議	GH 会議 認知症研修 身体の拘束適正化会議	身体の拘束適正化研修	感染症研修 身体の拘束適正化会議	GH 会議 認知症研修	正職員会議 身体の拘束適正化会議
待機者確保	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴強化	感染症予防 散歩日光浴強化	感染症予防	感染症予防 接遇強化	事故防止	接遇強化
研修・会議	感染症研修	GH 会議 認知症研修 身体の拘束適正化会議	身体の拘束適正化研修 感染症研修	身体の拘束適正化会議 正職員会議	GH 会議 認知症研修	身体の拘束適正化会議
待機者確保	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集

以上

令和5年度 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

事業計画書（案）

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく暮らしましょう！」をスローガンとし、体操・歩行・立位・座位保持を入居者様の状況に応じて習慣化し、日常生活の中で行っていく。感染症の状況を見ながらではあるが、近隣への外出や音楽療法の再開も視野に入れ、少しずつでも行う事で入居者様の心身の健康維持・向上に努めていく。物価・光熱費高騰している為、物品や備品の適切なメンテナンスや適切な使用を行い、少しでも支出の削減を行いたい。また感染症対策には引き続き細心の注意を払い、発生した場合でも施設運営に大きな影響がないように対応方法等を更新していく。

1. 入居者様の健康増進・喜ばれる介護支援

- I. 歩行・立位・座位保持・体操等、入居者様の出来る事を整理した上で、チェック表を作成、日常生活リハビリ担当者が毎日実施できるようにする。
- II. 近隣もしくはケアハウス4階への散歩を毎月最低2回（第2火曜日・第4火曜日）は計画し、実施する。計画以外にも天気の良い日は散歩や日光浴ができるよう職員に意識付けを行う。
- III. 2ヶ月に1回の外出もしくは外食の企画、毎月最低2回（第1火曜日・第3火曜日）に職員と入居者様と一緒に簡単なおやつを作るおやつレクリエーション、体操や書道手作業等のクラブ活動を毎週木曜日に行い、入居者様の楽しみや活動量の増加に繋げる。
- IV. 様々な場面において入居者様に感謝の言葉をお伝えしていく。「ありがとうございます。」の言葉を増やす事で入居者様に前向きで明るく過ごして頂けるようにしたい。

2. 入居者様の安定的確保・感染防止

- I. 毎月、相談員がデイ管理者と共に居宅事業所訪問を行い、ケアハウスの情報提供を行う。3か月に1度、区内・区外の病院や老健を中心に情報を発信する。
- II. 見学に来られた際は、施設内の照明をあらかじめ明るくし、お会いした職員は明るく挨拶を行う。またできる限りゆっくりと施設内を見学して頂き、気持ちよく見学をして頂く事で入居申し込みに繋げる。
- III. フロア床の全面張替えや老朽化したワゴンなど備品の更新検討、ケアステーションの美化やレイアウトの変更を行い、綺麗で清潔な施設という印象ができるようにする。
- IV. サンライフ魚崎居宅・あんしんすこやかセンター・グループ施設であるサンライフ住吉川、サンライフさくら魚崎北町との連携・情報交換を月1回、相談員が月初めに行い、空き状況や待機者の情報交換に加え地域の動向を把握行う事で待機者の確保に努める。

- V. 入居者様の状況・状態を見て、早期の入居を希望されている方においてはショートステイと連携し、ロングショート利用に繋げる事で待機者の確保を行う。
- VI. ケアハウスの情報や強み（4階庭園の眺望や散歩・日光浴、4階多目的スペースでのレクリエーション、駅から近い等）、競合する有料老人ホームとの違い（入居一時金なし、手厚い介護等）を記載した資料の作成・更新を行い、事業所訪問時・病院等への資料送付時・見学時にお渡しする事で、よりケアハウスがどのような場所なのかを分かりやすくする。またホームページの作成や見学希望者の無料送迎も検討する。
- VII. 入居者様が入院された場合、家族様・病院と連絡を取り、入居者様の状態に応じて看取り介護での退院も説明させて頂く事で可能な限り早期退院ができるよう調整を行う。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I. 介護福祉士受験予定者及び介護支援専門員受験予定者において施設内対策講座が受講できるよう勤務調整を行う。また相談員が2か月毎に受験予定者の学習進捗状況の確認・学習アドバイスをを行う。
- II. 技能実習生において相談員・リーダーが2か月毎に面談を行い、困っている事や業務達成度の確認を行う。関わる日本人職員も出来るだけ分かりやすい日本語を使用し、理解できているかどうかをその都度確認する。
- III. 職員状況を見ながら可能な限り、他フロアでの業務が経験できるよう調整を行い、職員の経験や見聞を通じた知識及び技術の向上・フロア間の協力体制の強化に繋げる。
- IV. 入居者様急変時・災害・感染症発生時に落ち着いて初動対応ができるよう年間スケジュールに沿って研修を行う。
- V. 3ヶ月毎に職員会議を実施し、必要事項の周知徹底を図る。
- VI. 科学的介護推進体制加算、退院・退所時連携加算、若年性認知症入居者受入加算、口腔衛生管理体制加算を継続する。サービス提供体制強化加算については（Ⅱ）が算定できるか検討する。
- VII. 労働環境改善支援事業の申請を行い、離床センサー内蔵ベッドを5台程度購入検討する。またロボットスーツの導入検討を行い、職員の負担軽減を図る。

4. その他

- I. 空調の時間差運転の実施、空調温度及び風量設定の統一、不要な照明を消す、介護物品の過度な使用防止について職員の意識向上を図り、コストを出来る限り抑制する。
- II. BCPに基づき、介護物品や非常食の備蓄、年2回の火災訓練、年1回の防災訓練を行い地震・津波・火災などの災害が発生しても業務停止せず継続できるような体制にする。
- III. 手洗い・うがい・換気・消毒の基本的な感染対策を徹底し感染防止に努める。実践的な研修を最低年1回全職員に対して行い、マニュアルの更新を適宜行う事でコロナウイルス等の感染症が施設内で発生しても落ち着いて適切な対応ができるようにする。

5. 年間稼働率

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
令和 4 年度 (実 績)	99.0	99.5	99.4	99.2	98.0	95.2	100	100	97.2	96.7	(96.5)	(98.0)	98.2
令和 5 年度 (目 標)	99.0	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	99.0	99.0	98.5	98.5	98.5	98.5	98.6

6. 収支計画

令和 5 年度収支計画

(単千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入実績	19,798	20,853	19,939	20,366	20,801	20,596	122,353
令和 5 年度収入計画	20,000	20,750	20,000	20,500	20,750	20,500	122,500
令和 4 年度支出実績	14,277	14,699	23,954	15,572	14,260	14,000	96,762
令和 5 年度支出計画	14,500	14,750	24,000	16,000	14,500	14,000	97,750
令和 4 年度収支差額	5,521	6,154	-4,015	4,794	6,541	6,596	25,591
令和 5 年度収支差額計画	5,500	6,000	-4,000	4,500	6,250	6,500	24,750

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入実績	20,389	21,003	20,242	(20,000)	(18,750)	(20,500)	243,237
令和 5 年度収入計画	20,750	20,500	20,750	20,750	19,250	20,750	245,250
令和 4 年度支出実績	16,233	14,147	25,500	(15,300)	(14,000)	(15,000)	196,942
令和 5 年度支出計画	14,800	13,000	25,000	15,500	14,500	14,800	195,350
令和 4 年度収支差額	4,156	6,856	-5,258	4,700	4,750	5,500	46,295
令和 5 年度収支差額計画	5,950	7,500	-4,250	5,250	4,750	5,950	49,900
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率	100.8%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率	99.2%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収支差額比率	107.7%						

収入・支出・収支差額についての管理者意見

待機者の安定的な確保・入院日数削減を行い、空床数を減らす事で収入を確保したい。その為には窓口担当者である相談員が地域での信頼度をあげたくさんの方々に知って頂く必要があり、粘り強く事業所訪問や案内送付をしていきたい。物価高騰の影響、備品などの更新の見込みを想定し、物品の節約や節電で出来る限り無駄を省き支出を抑制していきたい。ケアハウス職員一人一人が介護だけでなく少しでも経営感覚を持って節約していけるよう職員会議等を通して伝えていきたい。

7. 年間活動計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重点目標	感染症予防	腰痛予防	事故防止	腰痛予防	熱中症予防	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
			職員会議 フロア会議			職員会議 フロア会議
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重点目標	腰痛予防	事故防止	感染症予防	感染症予防	感染症予防	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
			職員会議 フロア会議			職員会議 フロア会議
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布

以 上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

令和5年度 事業計画書（案）

<スローガン>

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう！」

<方針>

1. 入居者様の健康管理

- 1) 入居希望者様との面接に同席し、生活上の医療的な問題の把握に努める。
- 2) 入居者様の体調確認を行い、受診の必要がある場合は速やかに医療機関へつなぐ。日頃より異常の早期発見、早期治療に努め、なるべく入院日数を減らす。
- 3) 毎月医療連携報告書を主治医へ提出し、医師と看護師の情報共有を行う。
- 4) 歯科医師指示の下、口腔ケアを2カ月に1回は実地出来るよう計画し歯科衛生士との情報共有を行う
- 5) 褥瘡予防の取り組みを行う。栄養状態の管理、除圧の工夫、スキンケアに職員全員で取り組む。必要時皮膚科往診を依頼し処置を行う。
- 6) 転倒予防の取り組みを行う。転倒リスクのアセスメントを行い、環境整備、センサーマット・見守りカメラ・福祉用具の活用により職員全員で転倒予防に努める。転倒時のカンファレンスには積極的に参加し再転倒が起こらないよう尽力する。

2. 看取りの対応

- 1) 入居時に危篤時の対応について入居者様・ご家族様へ意思を確認しておく。
- 2) ご家族様や医師への状態報告を密に行い、適切な時期に看取り同意書の説明と同意を得る。
- 3) 出来る範囲内の医療行為を行い、最期まで安楽に過ごせる為の支援を行う。

3. 感染対策

- 1) 手洗い、うがい、マスク着用を徹底し感染経路の遮断を行う。
- 2) 感染予防について感染対策委員と協力し職員への啓蒙、研修を行う。
- 3) 感染者が出た場合は感染を拡大させないよう、マニュアルに沿って対応する。

<感染時の基本的対応方法>

37.5℃以上の発熱、又は咳・咽頭痛・倦怠感の有症状者が発生した場合

- ① 該当フロア全員の検温と居室対応を行う

- ② 有症状者は感染対応とする
 - ③ 主治医へ報告し該当フロア全員の抗原検査実施
 - ④ 陽性者の人数によりゾーニング開始
- 4) 年休、生活支援休暇を計画的に取得し、看護職員自身の体調管理に努める。

以上

サンライフ魚崎（厨房）

令和5年度 事業計画書（案）

今年度は、新体制となった厨房職員の新たな人材育成・職場環境改善を重点に置き、利用者様・入居者様に好まれる安心・安全・美しく・美味しい食事の提供を目指す。また、大きな課題である人材不足・食材料費高騰に向けた対策の検討を行う。

1. 新たな人材育成・ハラスメント予防に対する周知

- I. 昨年度は厨房職員の入退職や厨房機器の入替があった。今年度は新体制となった常勤職員が主体となり、新しくなった厨房機器を上手く活用しながら、従来には思いつかなかったアイデアを出し合い、業務の効率化を図る。また、繰り返し、基礎的な給食業務・衛生面の知識等の再確認の徹底を行う事で事故防止を図る。
- II. 厨房職員の高齢化や個々の技量差が課題である。個々の知識や能力の差が見受けられるが、コミュニケーションや情報共有を行い、個々の意向に沿いながら、かつ、その人の“出来る事”をのばし、新しい業務の取得を目指す。また、業務内容の簡素化を視野に入れ、“直営厨房の良さ”を失う事の無い程度に、新調理システム導入の有無の検討も行う。
- III. 厨房職員がハラスメントについて理解し、意識できるよう研修を行い、働きやすい職場環境を構築する。

2. 厨房設備機器・物品の更新・改修の検討

昨年度は、水道蛇口交換（19ヶ所）や厨房機器入替（7ヶ所）を行った。今年度も経年劣化により異臭・害虫の原因となる排水側溝の改修、食器や器具等の老朽化や数量不足による更新の検討が必要である。事故防止や視覚からの楽しみを得て頂く為にも、随時、必要に応じて検討を行う。

※排水側溝の改修・利用者様の食器や箸・炊飯ジャーやスープジャー・鍋やケトル等

3. 食材価格高騰に対する対策

円安や世界情勢の影響により、大幅な食材価格の高騰が続いている。今年度も継続して、主仕入先2社を比較し、随時、取り扱い食材の変更を行う。コスト削減が厳しい現状ではあるが、近隣業者に変更前の令和元年度食材料費 36,000,000 円を超えないよう、随時、検討を行う。

4. B C Pサイクルの取り組み

職員がB P Cの流れを周知し、感染症や天災が発生した場合であっても、利用者様に必要なサービスが継続して提供できるような、体制作りを行う。

以上

令和5年度 サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

今年度の法人経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」に沿ってケアマネジメントを行い、昨年に引き続き黒字をできるだけ増やす方向で進めていきます。現在、正社員ケアマネ3名＋非常勤認定調査員1名で頑張ります。

I. 感染症や災害への対応力強化

感染症や災害の発生した場合であっても、日頃から地域にある介護サービス事業所や福祉用具事業所と密に情報交換をすることにより、利用者様に必要なサービスを継続的に効率よく提供できるようにします。本年もケアマネロッカーに災害時、持ち出し可能な名簿を作成保管し、速やかに災害時の安否確認が出来るようにします。

II. 令和3年4月改定の介護保険報酬に則り、適正なケアマネジメントを行います

- ① 生活援助の訪問回数の多い利用者様等のケアプランの検証を行っていきます。
- ② 退院・退所時カンファレンスにおける福祉用具専門相談員等を必要に応じ、参画することを明確にします。
- ③ 看取り期でのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援に結び付けます。（通院時情報連携加算）

III. 研修・その他

- ① 研修は、各ケアマネジャーが自分で考え、積極的にZOOMにより受講していきます。
- ② 「ケアプランデータ連携システム」を活用して、業務の効率化を図っていきます。
- ③ 高齢者虐待、ハラスメント、困難事例等、人権尊重に基づいたケアマネジメントについて地域包括支援センターと連携をはかり、早めに対応していきます。
- ④ 併設事業所のデイサービス職員とよりよいサービスを提供するにはどうすればよいかを議題とし、具体的に曜日を決めて定期的に会議を開催します。
- ⑤ 毎月、利用者様宅訪問時に利用者様により良い情報・配布物を1枚持参する。
- ⑥ 主任ケアマネ研修に7月1名、R6年1月に1名参加し、来年度に向けてケアプランの質の向上と収益を高めていく。

○ 収入（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入実績	1,516	1,499	1,411	1,451	1,505	1,512	8,894
令和 5 年度収入計画	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	9,000
令和 4 年度支出実績	1,270	1,106	2,376	1,274	1,065	1,128	8,219
令和 5 年度支出計画	1,200	1,200	2,400	1,200	1,200	384	8,400
令和 4 年度収支差額実績	246	393	-965	177	440	-197	675
令和 5 年度収支差額計画	300	300	-900	300	300	300	600
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 4 年度収入実績	1,533	1,374	1,452	1,400	1,400	1,400	17,453
令和 5 年度収入計画	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
令和 4 年度支出実績	1,355	1,134	2,629	1,200	1,200	1,200	16,937
令和 5 年度支出計画	1,200	1,200	2,600	1,200	1,200	1,200	17,000
令和 4 年度収支差額	178	240	-1,117	200	200	200	516
令和 5 年度収支差額計画	300	29,030	-1,100	300	300	300	1,000
令和 4 年度と令和 5 年度計画の収入比率	103.13%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の支出比率	100.37%						
令和 4 年度と令和 5 年度計画の差額比率	193.80%						

収入・支出・差額についての管理者意見

何とか赤字脱却できる体制が構築できた。次の課題は、主任ケアマネの資格取得となる。

以 上

令和5年度魚崎北部あんしんすこやかセンター

(地域包括支援センター)

事業計画書(案)

経営スローガン

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう！」

サブ

「全職員の専門力を生かし連携して、感染防止し楽しい生活を提供する！」

昨年度、甲南地域の既存の資源や困り事について調査や聞き取りを行い、「地域ケア会議」を通し共有し、地域の住民や役員、お店の人や医療関係者や事業所の方と一緒に考え、「プロジェクト甲南」というイベント毎に連携できるネットワークを構築することができた。甲南商店街で、商店街や警察の協力を得て、認知症高齢者の声掛け訓練が実施できた。今年度も、「プロジェクト甲南」を生かして活動していきたい。

北青木地域の自治会役員と連携できる関係を築き、20カ所の掲示と80カ所の回覧の広報ルートが確立できた。センターから離れている北青木周辺地区を対象に西青木総合会館で、9月より毎月第3水曜日の10時から12時に出張相談会とフレイル予防体操をすることとなった。北青木の広報ルートを使い、毎月出張相談会やセンターの広報を実施できた。

今年度も、広報ルートや出張相談会を上手く活用し、発信や活動していきたい。

魚崎北町の校北公園で5月より毎週水曜日9時半よりラジオ体操を開催している。今年度も継続し、フレイル予防や情報提供を継続していきたい。

相談、フレイル予防支援、認知症施策、ひきこもり・8050関連施策との連動、こども若者ケアラー、包括的連携、虐待、困難事例、成年後見、ケアマネ支援、見守り、緊急対応、地域診断、つどい場の後方支援、地域ケア会議、イベント企画等多種多様な対応を求められるが、常にセンター内で情報共有し、コロナ感染防止策を検討し、職員一同で助け合ってコロナ禍を乗り切る。

企画イベント回数、記録の短縮、業務の簡素化や効率化を図り、定時退社する。体操や研修で、足腰頭と心を鍛えて、職員の健康維持増進を目指す。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

事業所連絡会で、事業所、主にケアマネジャー向けに成年後見制度だけでなく、それに関わる周辺制度も含めてリサーチし、インフォメーションする。

つどい場・介護リフレッシュ教室・給食会・相談対応・地域の掲示板や配布等で消費者被害注意喚起の広報をする。

今年度、東灘区のあんしんすこやかセンター社会福祉士と立命館大学産業社会学部

の協働で2年かけて作成した虐待防止パンフレットが完成、刷り上がる。その効果的な活用の仕方を検討し、地域で広報活動を実施する。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

(令和4年度は神戸市からの委託料なし。認知症高齢者声掛け訓練開催経費1万円)

12年目を迎える「お魚の会」は「地域ケア会議」を兼ねて令和5年度も開催予定。

第1回目7月 「プロジェクト甲南」ネットワークで、甲南地域利用時に立ち寄れる居場所を立ち上げる。認知症や高齢者が安心して甲南地域を利用できるようにする。

健康寿命延伸の推進に関する業務(令和4年度神戸市から85万円の委託料あり)

介護予防普及啓発事業「元氣いきいき講座」をR5年度は、年1回開催予定。

第1回目6月 フレイル予防「元氣いきいき講座」(北青木地域で開催)

魚崎北町の高齢化率の高い地域の公園でラジオ体操の定期的開催を継続する。

北青木地域では月に一度の出張相談会で、介護予防体操やイベント等を実施する。

3. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を開催していく。

(神戸市から50,000円開催経費あり。)

- ・地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議を開催していく

第1回目7月 「甲南地域に、立ち寄れる居場所を増やし利用しやすい町にする。」

お魚の会合同開催

第2回目10月 「北青木地域での防災について考える。」

第3回目1月 事例検討会開催

- ・地域別連絡会(ケアマネ支援)WEB研修を中心に

・「東灘区あんしんすこやかセンター」と「医療介護サポートセンター」合同にて、センター主催、ケアマネ支援研修会を年4回開催する。

第1回目6月 医療と介護の連携について

第2回目8月 口腔内研修

第3回目12月 困難事例検討会

第4回目2月 障害者サービスと介護保険適用に関する情報交換会

- ・地域内の事業所やケアマネのレベルアップと連携を図る目的で事業者連絡会開催。

第1回目8月 身体障害制度について

4. コロナ感染症の影響は大きく、外出の機会が減り、フレイルの進行が懸念される独居高齢者世帯や老々世帯などが、地域に出掛けられるように支える。また、つどい場がコロナ感染症対応で再開できていないグループもあり、室外活動の実施など工夫しながら再開できるように支援していく。

- ・介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高18万円委託料あり。

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室(最低必要回数である年4回開催予定)

第4回目 2月 茶話会

○ふれあい喫茶は当法人主催での取り組みであるが、コロナ感染症状況を確認しながら、再開の工夫や規模縮小など考えて、今後も再開の検討を行う。

・令和5年度 収支計画（神戸市からの委託料及び介護予防費含む）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 4 年度収入実績	732	9, 288	825	782	8, 813	793	21, 234
令和 5 年度収入計画	760	9, 300	760	760	9, 200	760	21, 540
令和 4 年度支出実績	2, 086	1, 977	3, 677	2, 238	2, 025	2, 056	13, 234
令和 5 年度支出計画	2, 050	2, 050	2, 900	2, 050	2, 050	2, 050	13, 150
令和 4 年度収支差額	-1, 354	7, 311	-2, 852	-1, 456	6, 788	-1, 263	7, 174
令和 5 年度収支差額	-1, 290	7, 250	-2, 140	-1, 290	7, 150	-1, 290	8, 390

[illegible]